

翻
刻

迎變紀事
(栗田勤編纂)

解題

栗田勤編纂、明治二十八年三月刊。四ツ目康熙綴。全二卷（乾・坤）、全百一丁（乾四十九丁・坤五十二丁）。本文は漢字片仮名交り文。高崎親章・亀井直敬書「叙」三丁、栗田寛の序・三丁、例言一丁、本編四十二丁（以上、乾）、「迎鑾紀事附録」五十二丁（坤）、奥付は「明治廿八年三月三日印刷、明治廿八年三月七日発行、著作者 栗田勤 茨城県水戸市上市大坂町七番地、発行者 西村弥兵衛 茨城県水戸市上市泉町百五番地、印刷所 大高治兵衛 茨城県水戸市上市馬口旁町六十八番地、印刷所 水戸商況日報社 茨城県水戸市上市馬口旁町六十八番地」。本書は、明治二十三年十月の明治天皇・昭憲皇太后の茨城県行幸啓の顛末を、栗田勤が時系列に記した記録である。

行幸啓の目的は、近衛諸隊秋季小機動演習を御覧になられるためで、『明治天皇紀』によると、十月二十六日に水戸行在所である茨城県尋常師範学校に著御された後、二十七日に新治郡成井原で近衛兵の演習を天覧あらせられ、二十八日には成井原での観兵式に臨御されており、二十九日に東京に還幸された。また、『昭憲皇太后実録』には、昭憲皇太后が行啓中に常磐公園（偕楽園）内の好文亭や水戸公園内の「弘道館記碑」「種梅記碑」など徳川斉昭縁の地に赴かれた御様子が記されている。なお、昭憲皇太后には、このときの行啓中の御体験や御感想を記された御文章があり、『類纂新輯昭憲皇太后御集』（明治神宮、平成二年）に収められている。

編纂者の栗田勤（安政四年（一八五七）～昭和五年（一九三〇））は、安政四年八月、栗田寛の兄・亀井直の三男として生まれる。通称は勤三、号は晦屋。のちに寛の養子となる。明治十七年四月に彰考館に入り、『大日本史』の編纂に従事し、明治三十二年の

寛の死後は、その遺志を継いで一志三表を完成させ、『大日本史』編纂事業を終結させた。晩年は茨城県嘱託となり、県下の史蹟文化財の調査にあたり、昭和五年十月に没した。勤の著作には、本書の他に『大日本史』編纂の沿革をまとめた『水藩修史事略』（昭和三年刊）がある。

本書は、栗田勤が水戸市長の委嘱を受け、当時の官令・県庁・市郡役所などの記録を中心に、新聞や行幸啓に携わった人々の筆記や口話なども参考にして編纂したものである。官令・県庁・市郡役所などの記録は、そのまま引用されており、その点で史料的な価値も高い。ただし、その明治二十三年十月二十六日から二十九日にかけての行幸啓について詳細に記録しており、『迎鑾紀事附録』には、古書画古器物陳列場日誌や古書画古器物出品目録、賀表や和歌を進献した人々の一覧、行幸啓御用係の人名表などが記されている。

凡例

（半田）

- 一、底本は明治神宮蔵本を使用した。
- 一、仮名遣・踊り字は原文通りとした。
- 一、底本の文体を損なわないよう注意し、字体は原則的に通行のものに改め、特定漢字のみ原文のままとした。
- 一、割註は、【一】で括弧して一行書きにした。

迎鑾紀事 乾

迎鑾紀事叙

水戸士民乃心 王室久矣唯以其地僻在東陬古來未嘗有迎 鑾駕之盛事其有之美以明治二十三年 行幸為始焉是歲十月二十六日 今上皇帝陛下閱兵於県下成井原乃以水戸市為 行在所是日 皇帝陛下與

皇后陛下和鑾雖々 車駕臨幸焉士民老幼欽然奉迎頌喜如沸

而陛下駐蹕于水戸城三日高年有賜物先哲有追獎其他推恩不鮮矣士民固嘗敬戴 皇澤及是益深感佩 聖慈情弥切於傾陽盛德至善民之不能忘者此舉有焉今記其盛事永矢不諼亦臣子之至情豈其容已乎哉是蓋水戸市之所以有此輯錄也書既脫稿請序於余々當時未蒞職干斯以故不面拜其盛儀而今披讀此冊子則所謂聞車馬之音見羽旄之美及拳欣々然有喜色而相告白之狀宛然在目矣使士民不勝追想之情感激之意嗚呼是洵足以存盛事於不朽而作乃心於將來矣余今奉承乏知県安得不欽仰而嘉此美舉於是乎書

明治二十七年六月穀旦

正五位高崎親章 亀井直敬書

安みし、我大君高光るあかひの御子はうつそみの神にいませは赤ねさすひたちの海を池としもみそなハしまし新治のつくはの山をいさ、けき丘とみ給ふその時にこれの大野にし、しかはにへきに居るなり鹿のあしハしも原なりし、の息ふき霧にまかふと大前に誰かいひけん大君はそこを聞して大御身に大刀とりはかし大御手に筒とりもたし玉まきの車にめし倭文まきのあくらにた、し白はふ新治かたに朝にはし、蹈おこし夕にはうさきとらはへ物部の八十伴雄大伴のますらたけ男をなて給ひあともひまして御軍を

と、のふはしに此国はたふとき国此山はみかほし山と神なからおもほしめして筑波ねはをかとみしかと西山はたかくありけりあら海は池とみしかと押建男神の心は海よりも深かりけりとそのかみに仕へし人のくさ／＼のてふりをさへにはふつたのねもころ／＼に大君のとはし給ふと風の音のとはとに聞ていとも／＼国内の民はうれしけくよろこひいさみと、のふる大御軍の男たけひと共にとよみてうちゑらくなり

明治二十三年

聖駕行幸於茨城県之時作歌

栗田寛

例言

一 此書ハ水戸市長ノ委嘱ニ依リテ編纂セリ故ニ主トシテ水戸市ニ関セル 行幸啓ノ顛末ヲ記載セルヲ以テ他ノ郡村及演習地ノ事ノ如キ或ハ省約ニ従フモノアリ然レトモ其奉迎ニ関セル大体ノ事実ハ務メテ之ヲ網羅セリ

一 此書 行幸啓ニ関セル事実ハ細大共ニ日時ヲ追テ列記シ其日時ノ下ニ挙ケ難キモノハ之ヲ附録トシテ別巻ニ収メタリ

一 此書ノ材料ハ當時ノ諸官令県庁市郡役所及小梅邸等ノ記録ヲ本トシ諸新聞紙及 行幸啓ノ事ニ関与セル人々ノ筆記口話等ヲモ參取セリ然レトモ猶未タ掛漏ノ憾ナキ能ハス覽者請フ是正ノ勞ヲ惜ムヲ勿レ

明治二十六年七月

編者 識

迎鑾紀事

水戸 栗田 勤 編纂

明治二十三年十月二十六日近衛諸兵ノ秋季演習 觀覽ノ為メ
天皇 皇后宮ト俱ニ我カ茨城県ニ臨幸シ殊ニ其 行在所ヲ
水戸ニ定メ玉フ水戸市ノ市民等官吏及諸議員ト同シク之ヲ水戸
停車場ニ迎ヘ奉リ駐 輦三日其間親シク 鑾駕ノ余光ヲ拝
シ殊ニ優渥ナル 聖恩ニ沐浴スルヲ得タリ是豈水戸市民前古
未曾有ノ光榮ニアラスヤ今其 行幸ニ関セル事実ノ顛末ヲ列
記シ以テ史氏ノ採択ニ供フ

十月三日 聖上 皇后ト俱ニ本県ニ 行幸シ將ニ新治郡成井
原ニ行ハントスル近衛諸兵ノ秋季演習ヲ御覽ノ為メ 鳳輦ヲ
水戸ニ駐メ玉フノ内命アリ因テ先ツ侍從堀河康隆宮内省書記官
股野琢等ヲシテ予メ 輦道ヲ巡檢セシメントストノ報本県知
事安田定則ノ許ニ達セリ

五日 安田知事ハ属僚和田忠ヲ西茨城郡笠間町ニ遣ハシ堀河侍從
等ノ一行ヲ迎ヘシム午前十一時五十五分一行水戸ニ着セリ其
人々ハ高等官ニハ主殿頭山口正定侍從堀河康隆陸軍工兵中佐近
衛參謀蛟嶋重雄属官ニハ内事課詰近藤久敬主殿寮詰津田長將調
度局詰戸田重民大膳職詰久米井隆吉皇后宮職詰坂田厚孝及技手
内匠寮詰柴田至等ナリ四時四十分宮内書記官股野琢車馬監山口
融等モ亦至リ共ニ知事安田定則ノ宅ニ会シテ諸事ヲ協議ス本県
書記官磯貝靜藏藤田健及水戸徳川家扶川邊善固等モ亦參会セリ
六日 山口主殿頭以下ノ一行ニハ執レモ本県庁ニ至リ直チニ安田
知事藤田書記官【數日ノ後參事官ニ遷リ】等同伴ニテ行在所ニ充

ツヘキ旧城内ナル本県尋常師範學校及水戸公園弘道館常磐公園
好文亭等ヲ巡覽セラレタリ
此日安田知事ヨリ西郷内務大臣ニ内申シテ水戸 御駐輦ノ日

県治ニ 臨幸アランコヲ懇請セリ其略ニ云ク

仄カニ聞ク陸軍大演習ヲ県下ニ行ハレ治下水戸市ヲ以テ
行在所ニ充テラレントスト本県古來未タ嘗テ 行幸 行
啓ノ儀ヲ拝セス然ルニ今ヤ此盛典ヲ受ク実ニ千載ノ一遇人民
ノ歎喜之ニ加フヘキモノナシ若シ駐 輦ノ日ヲ以テ県治ニ
臨幸ヲ賜ハリ 親シク民情風俗等ヲ 觀察シ玉ハ、弥
聖恩ノ厚ヲ感佩セントス然ラハ則將來人民ノ福祉ヲ進ムヘキ
ハ論ナク施治上ノ一大幸慶ナリトス仰キ願クハ吹嘘ノ勞ニ由
テ 臨幸ノ光榮ヲ賜ヒ此ノ望ヲ達スルヲ得セシメラレンコ
ヲ懇請ニ任ヘス

七日 山口主殿頭以下ノ一行西茨城郡穴戸町ニ趣キ尋テ帰京ノ途
ニ上レリ

十日 県庁ヨリ 御通輦沿道ニ係ル郡吏民等奉迎送心得書【下
ナル市民心得書ニ同シ】ヲ西葛飾猿嶋真壁結城岡田豊田東茨城等
ノ郡長ニ移牒セラル又尋常師範學校ヲ以テ行在所ニ充テラル、
ニ付本月十五日ヨリ十一月二日至ルマテ臨時休業シ生徒ハ外
宿セシムヘキヲ令シ且ツ水戸傍近ノ郡衙ニ移牒シテ水戸市中ニ
在ル諸學校生徒職員等 聖駕奉迎ノ準備ヲ為スヲ以テ他ノ小
學校職員生徒ノ參列ニ志アルモノハ予メ校名人員等ヲ調査シテ
報告セシム

水戸市ニ於テハ大関俊徳矢田登富田彦市戸村義令大津金兵衛等
ヲ挙ケテ協議員ト為シ専ラ市長服部正義助役小宅時正等ヲ助ケ
テ 行幸ニ関セル諸般ノ事ヲ協議セシム東茨城郡珂ノ二郡モ
亦之ニ倣テ數名ノ協議員ヲ置ケリ

十二日 水戸市長及協議員等上市泉町ニ臨時事務所ヲ置キ【水戸
鐵道会社事務所ヲ以テ之ニ充ツ】上市下市各町ノ士民総代等ヲ会集
シ寄附金ノ募集及道路ノ新開【棚町ヨリ旧城不開門ニ至ル間及河和

田横町ヨリ直チニ常磐公園ヘノ通路【上市元白銀町泉町等】街巷ノ掃除等諸般ノ事ヲ協議シ県庁ニテモ其構外ナル池溝及堤防等ノ掃除ニ着手シ又東茨城郡役所ニ於テハ仙波湖堰下二十余村ノ壮丁ヲ役シテ湖中ノ汚泥ヲ浚渫シ且ツ菰蒲ヲ悉ク荊除セシメタリ

十三日 行幸ノ期漸ク近ツクヲ以テ水戸市中商估等其機ニ乗シ或ハ利ヲ貪リ故ラニ物価ヲ騰貴シ又ハ諸賃金ヲ増ス等其弊頗ル甚シキヲ以テ妄ニ奇利ヲ射非理ノ利ヲ焚ルヘカサルヲ戒諭スヘキ旨県庁ヨリ訓示アリシニヨリ市長ハ更ニ其意ヲ市民ヘ公布セリ

此日県庁ニ於テ予メ 聖駕奉迎ノ諸儀ヲ内定シ且ツ奉送迎ノ所ヲ水戸停車場前ニ設クヘキヲ市郡役所ニ通知セラル其市民心得書ハ左ノ如シ

一水戸全市毎戸ニ国旗并ニ画日ノ提灯ヲ掲クルヲ要ス

一御通輦ノ街巷ニ在テハ毎戸軒前ヲ修理清潔ニスヘシ

一御通輦ノ際ハ鹵簿ニ近ツクヘカラス必ス路傍ニ正立シ脱帽敬礼ヲ表スヘシ

一拝観人ハ頭ニ拭巾ヲ冠リ又ハ傘類ヲ張ルコトヲ許サス

一土堤又ハ高処ニ在テ拝観スヘカラス

一御通輦ニ当ル家屋ハ楼上ノ戸ヲ閉鎖スヘシ

一御通輦ノ街路ハ盛リ砂ヲ為スヲ要ス

十四日 県庁ニ於テ庁内ヘ 臨御ノ時ノ諸儀式ヲ予定シ各部署ニ報セラル即チ左ノ如シ

一庁堂東楼上ヲ以テ 玉座トシ 臨御ニ際シ知事御先導

玉座ニ御スルヲ待チ治狀ヲ奏上ス

一書記官警部長収税長参事官ハ庁門内ニ出テ奉迎送ス

一知事室ヲ以テ供奉ノ皇族并諸大臣ノ控席トシ第一応接所ヲ以

テ供奉ノ勅奏任官ノ控席ニ充ツ

一廟堂ニ 臨幸ニ方リテハ玄関ヨリ堂ノ南局前ノ廊下ヲ通御一各課出入口等郡テ窓戸ヲ放開シ課員事務ニ従事スルヲ平常ノ如シ但 御通御ニ当ル課局ハ在員立札ヲ為スヘシ

一臨御中ハ各課出入ヲ戒ム給仕小使ハ一切廊下通過ヲ許サス一在庁ノ官吏ハ洋服【フロックコート若シクハモーニングコート色黒】若シクハ羽織【紋付】袴ヲ着クヘシ

此日又各郡市役所ニ移牒シテ管内八十歳以上ノ高齢者ヲ調査セシム且ツ高齢者ニ水戸市内及傍近ノモノハ自ら出テ、 聖駕ヲ迎ヘ奉ラシメ又各郡長ニモ 行幸啓ノ際郡務ノ支障ナキ者ハ 天機伺トシテ 行在地ニ到ルヘキ旨ヲ令セリ

十五日 水戸市ニ於テ市内外ノ神社仏閣及諸旧家等ニ藏セル古書画古器類ノ優逸珍貴ナル者ヲ蒐集シテ行在所内ニ陳列シ以テ御駐輦中 天覧ニ供シ奉リ且ツ供奉諸員ニ縦覧セシメントス因テ服部市長ハ其道ニ通曉セル人ヲ撰ミテ其事ヲ担当セシメタリ

十七日 御駐輦中諸事取締ノ為メ那珂久慈多賀鹿嶋東茨城等各郡ノ警察署ニ令シテ其巡查百五十人ヲ徴シ廿五日ヲ期シテ水戸市ニ会セシメ其他ハ 御通輦沿道及演習地ヘ赴カシム

十八日 行在所即チ師範學校ハ其玄関ヨリ南端ニ当レル講堂ヲ以テ 聖上ノ 玉座ニ其西ニ接シタル博物教場ヲ以テ 皇

后宮ノ 玉座ニ充テ奉リ其他第一応接所校長室幹事室書記室等玄関左右ノ各室ヲ以テ侍從侍医及供奉ノ諸員并ニ近衛將校等ノ詰所ト為シ又御料ノ厩ハ同校正門内ノ左傍ニ供奉諸員ノ厩ハ同校構外ナル北手ニ設立シ県吏岸田俊徳杉浦正木等昼夜數十人ノ職工ヲ督促シテ其裝飾ニ従事セリ

二十日 知事安田定則書ヲ皇后宮亮香川敬三主殿頭山口正定ニ寄

セテ管下 行幸ノ途次結城下館笠間ノ三停車場ニ於テ小学校

生徒其他奉迎者多キヲ以テ特ニ前三場ニ在テ三分時間御停車ノ
特恩ヲ賜ハランヲ請フ尋テ特ニ之ヲ聴容セラレ該場 御通

輦徐々通過遊サル、旨内命アリ

此日 聖上 皇后県下へ 行幸 行啓 アラセラ

ル、旨宮内大臣土方久元ヨリ公達アリ其文ニ曰ク

来ル二十六日 御発輦近衛諸兵秋季演習 御覽トシテ

聖上 皇后宮其県下へ 行幸 行啓被為在其県庁ヘモ

臨御ノ旨被仰出候条地方官心得 行在所門衛心得其県下御

道筋書相添此段相達候也

追テ御発着日時調書ハ別ニ可及通牒候也

茨城県官心得

一行幸啓ノ準備ニ関スル件ハ内事課内匠寮調度局等ノ協議ヲ受

ケテ之ニ従事スヘシ

一県知事其外在県奏任官以上ハ 御着輦ニハ水戸停車場へ奉

迎シ 御発輦ニハ同所へ奉送スヘシ

但演習地へ 行幸御発着ニハ奉送迎ニ及ハス

一鹵簿ニハ警部二名御先導シ二名後殿シテ知事供奉スヘシ但乗

馬トス

一御着輦及 還幸御発輦ノ節水戸停車場 行在所間 劍

聖御別列ニ付左ノ御別立ニ準シ警部二名差出スヘシ

劍聖御列

警部【騎馬】劍聖【御馬車侍從陪乘】近衛將校【騎馬】警部【騎

馬】

一汽車中及演習地ニ在テハ地方官御先導供奉ヲ要セス但演習地

へハ御用弁ノ為メ鹵簿外ニテ出張スヘシ

一鹵簿ノ御供揃ハ時刻ヨリ三十分前トス故ニ地方官鹵簿ニ属ス

ルモノハ御供揃時限必ス到着スヘシ

一行幸啓関係ノ地方官ニ在テハ着服ハ通常服【フロックコート】

御先導警部ハ略服トス

一御通行道筋及停車場等ハ適宜ニ之ヲ警戒シ群衆雜沓シテ供奉

員ノ通行御用物ノ運搬ニ差支シメサル様注意スヘシ

一行在所ハ師範学校ヲ以テ之ニ充テ旧弘道館ヲ以テ非常 御

立退所トス但 御立退所ハ前以テ掃除シ置クヘシ別段ノ準

備ヲ要セス

一御立退所ハ 御着輦前後ニ在テ侍從近衛將校其他宮内供奉

員便宜ヲ以テ見分スヘキニ付地方官ハ通知ヲ得テ案内スヘシ

一行在所諸門ハ 御着輦当日ヨリ之ヲ警戒シ

御発輦当日御出門ヲ限り警戒ヲ解ク其門制ハ左ノ如シ

表門 車駕ノ通御ヘ充テ近衛之ヲ管シ鹵簿ニ属セサル諸

人ノ通行ヲ禁ス

脇門 官吏出入ノ処トシ昼夜開扉シ門衛ヲ置テ通行人ヲ

檢察セシム

裏門 通用門ニ充テ官吏其他雜人ノ出入スル所トス開扉

及檢察脇門ニ同シ

諸門ノ出入ハ制服並宮内官小礼服用ノ輦ニ在テハ無鑑札

其他ハ必ス鑑札ヲ以テシ物品持出ハ必ス持出証ヲ以テス

但表門ニ在テハ鑑札ヲ用井ス

一行在所諸門通行鑑札物品持出証ハ宮内省地方庁互ニ之ヲ發行

ス但シ地方庁ニ於テ發行スルモノハ専ラ地方官地方人民ニ用

ウルモノトス

一地方庁ニ於テ發行スル 行在所諸門通行鑑札物品持出証ハ

諸門警戒期ニ先タチ照準用各一通ヲ門衛ニ交付シ更ニ供奉内

事課ヘモ差出スヘシ

一行在所門衛ハ地方巡查ヲ以テ之ニ充ツルモノトシ地方庁ニ於テ相応ノ人員ヲ準備スヘシ

一行在所建札ハ 御着輦当日表門ニ掲出スヘシ

一行在所ノ使役ニ供スル為メ給仕八名ヲ雇入ルヘシ其服務ハ大略左ノ如シ但成ル可ク物馴レタルモノヲ撰フヘシ其雇給ハ内藏寮ヨリ支払フモノトス

一各詰所ノ使役ニ服シ机卓ヲ整理スル事

一当番宿直寢所ハ敷設撤却ヲ取扱フ事

一高等官食堂ノ給仕ヲ負担スル事

一食堂具設撃析ノ報ヲ得タルトキハ各詰所ヘ食時ノ注意ヲナス事

一浴室開始時限ニハ現場ノ具設成ルヲ見認タル上各詰所ヘ注意スル事

一行在所ヘハ 御駐輦中御用弁ノ為メ地方官員詰合ハスヘシ

一行在所供奉員ヨリ發スル信書ノ送達方ハ詰合ノ地方官ニ於テ負担シ淹滯誤達等ナキ様注意シテ取計フヘシ

一御膳水ハ水質ヲ検査シ井戸蓋ヲ設ケ流シ板等腐朽ノ分ハ修繕ヲ加ヘ釣瓶繩等新調シ取締ノ上平常通り使用スヘシ

一有位帶敷ノ者 天機伺トシテ出頭スルハ苦シカラス但故ヲニ示達シテ出頭セシムルニ及ハス

一国会議員県會議員人民惣代等ハ 天機伺ニ及ハス

一人民ニ於テ奉祝ノ為メ煙花ノ打揚ヲナサントスルモノハ警察官ノ見込ヲ以テ遠隔ノ場所ニ於テセシムルハ苦シカラス

但番付二通ヲ作り前以テ供奉内事課ヘ届出ツヘシ

一一般ヨリスル諸献上物ハ一切相成ラス

一祝詞詠草等 御覽願出タルモノ有之等ハ其住所氏名及品目員数節ヲ詳記シタル目錄二通ヲ添ヘ供奉内事課ヘ申出ツヘシ

一古器物書画類物産等ヲ 行在所其他 臨御ノ場所ニ陳列スルハ苦シカラス但御場所ノ障リトナラサル様注意スヘシ

一御駐輦中出火ノ節ハ速ニ火元取調ヘ内事課ヘ注進スヘシ

一供奉員旅宿ニ定メタル場所ニ於テ諸事既ニ用意シタル後御用都合ニ依リ俄ニ旅宿不用トナルモ定価ノ旅籠料ハ官費ニテ支払フモノトス但宿主ヨリ地方官ヘ申立サセ直ニ供奉内藏寮ヘ請求スヘシ

一行在所門衛心得

一行在所諸門ハ 御着輦当日ヨリ之ヲ警戒シ 御發輦当日

御出門ヲ限り警戒ヲ解ク其門制ハ左ノ如シ

表門 車駕ノ通御ニ充テ近衛之ヲ管シ鹵簿ニ属セサル諸人ノ通行ヲ禁ス

脇門 官吏通行ノ処トシ昼夜開扉シ門衛巡查通行人ヲ檢察ス

裏門 通用門ニ充テ官吏其他雜人ノ通行スル処トス開扉及

檢察脇門ニ同シ

諸門ノ出入ハ小礼服并制服用ノ輩ニ在テハ無鑑札其他ハ必ス供奉鑑札若クハ地方庁鑑札ヲ以テシ物品持出ハ必ス持出証ヲ以テセシム但表門ニ在テハ鑑札ヲ用井ス

一鑑札ハ一枚ヲ以テ一人ノ通行ヲ証スルモノトス但乗車馬輦ニ在テ本人若クハ車夫馬丁ノ内ヨリ鑑札一枚ヲ示シタル時ハ一行数人ノ通行ヲ許スヘシ

一物品ヲ持出サントスルモノアル時ハ必ス持出証ニ照シテ其通過ヲ許シ其之ヲ持入ルモノニ在テハ物質ヲ檢シテ通過セシムヘシ

一行在所内諸向ニ所用アルモノ無鑑札ニテ出頭シタル時ハ其姓名用向往先ヲ取糺シ 行在所詰地方官ニ通報シ証明ヲ得テ

通行ヲ許スヘシ

一門制ヲ犯シ門衛ノ制止ニ服セサルモノアル時ハ地方警察官ニ引渡シ事由ヲ供奉内事課ニ報スヘシ

一供奉鑑札及宮内省物品持出証雛形ハ左ノ如シ但地方庁鑑札及物品持出証ハ便宜其庁ヨリ交付スヘシ【但雛形ハ略ス】御着輦当日停車場 行在所間御道筋ハ左ノ如シ

一停車場ヨリ右ヘ柵町ニ出テ左ノ銀杏町通右ヘ水戸公園ニ沿ヘ旧弘道館前右ヘ橋ヲ渡リ旧城内ニ入り左ヘ右ヘ師範学校ニ沿ヒ 行在所表門ヘ御順路

二十一日 内務大臣西郷従道ヨリ電信ヲ以テ県庁ヘ 臨御ノ件裁可セラル、ノ旨ヲ知事安田定則ヘ報セラル因テ 行幸啓御用係ヲ県官ニ命ス是ヨリ先キ仮リニ係員ヲ命シ各々供張準備ニ従事セシム是ニ至リテ 行幸確定セルヲ以テ此命アリ水戸市モ亦之ニ倣テ諸係員ヲ設ケ其姓名ヲ申告セリ【各係ヲ分テ行在所古書画古器物陳列場旅館道路車馬好文亭弘道館會計用度雑務等トス】

二十二日 水戸市ノ士族馬場祐介寺門謹栗田寛塙重遠神德隣等書ヲ土方宮内大臣ニ呈シテ故藤田一正故会沢安ノ二人ヘ御贈位ノ 恩典アランヲ乞ヘリ其書ハ【栗田寛ノ起草ニ係ル】即チ左ノ如シ

旧水戸藩士小姓頭取列彰考館総裁

藤田次郎左衛門一正

右一正儀ハ文化文政風俗游惰ノ際ニ当リ 皇室ノ衰頹ヲ憂ヒ嘗テ高山正之蒲生秀実等ト議論ヲ上下ス時二正之ハ許スニ国士無雙ヲ以テシ秀実ハ英見卓識天下無比ト称セリ一正年十八歳正名論ヲ著ハシ 朝廷ノ尊崇スヘキ事ヲ論シ之ヲ幕府ニ呈シ当時閣老ヲシテ舌ヲ吐カシムルニ至ル其學術文章一世ヲ鼓動シ先君義公ノ意ヲ奉遵シ大日本史編纂ノ事ニ預リ大義

名分ヲ明ニシ仁孝一本政教一致ノ説ヲ述ヘ人材教育ニ力ヲ盡シ閭藩士民ヲシテ嚮フ所ヲ知ラシメタルヨリ烈公ノ義公ノ統ヲ承ケ其遺志ヲ継述スルニ至ル迄多ク一正ノ経画翊賛ニ係ルノミナラス其子ニ誠之進アリ門人ニ会沢恒蔵豊田彦次郎等アリ其它文武ノ士一時輩出各材芸ヲ研ギ學術ヲ振ヒ終ニ尊王ノ義ヲ以テ烈公ヲ輔翼シタル功業天下ニ及フモ亦皆一正ニ淵源セサルハナシ是ヲ以テ昨年誠之進ヘ贈位被下置人民一同感抃仕候節サヘ其父一正ニモト窃カニ企望仕候程ノ義ニ付今般本県ヘ 御巡幸ノ折ヲ以テ右一正ヘ御追贈被為在候ハ、國中一統 聖恩ノ深キニ感シ將來正學振起ノ基ニモ可罷成ト奉存候間何卒宜敷御執奏相願度候右ニ付其平生ノ行狀學問經濟ノ要ヲ御覽被遊候為ニ勸農或問ニ連異称及門遺範及ヒ行狀碑文ヲ副進シ此段奉歎願候頓首謹言

旧水戸藩士小姓頭兼弘道館教授頭取

会沢恒蔵安

右安儀ハ藤田一正ノ高弟ニテ専ラ尊 王ノ大義ヲ首唱シ神聖ノ大道ヲ明カニシ六経ノ精蘊ヲ極メ正名明義彝倫綱常ヲ扶植スルヲ任トシ常ニ曰ク上古 神聖基ヲ肇メ忠孝ノ訓之ヲ三器ニ本ツケテ 宝祚ノ隆ナルヲ天壤ト窮リナク君臣以テ定ル 天胤ノ尊キ万世易ラスシテ父子以テ惇ク大本既ニ立テ五品能ク遜フ世界ノ広キ万国ノ多キ孰カ能ク吾カ 神州ニ及フ者アラント以テ新論ヲ著ハシ天下志士ノ氣ヲ鼓舞作興シ明治維新ノ大業ヲ助成仕候モ尠少ノ義ニ無之段天下有識ノ公論モアル事ニ候ハハ今更絮々申述ニモ不及義ニ候ヘトモ其功業実ニ高山正之蒲生秀実ノ下ニアサルヲト奉存候然ルニ彼二人ハ早ク御賞典ニ預リ安ニ至リテハ未タ御追賞不被為在ニ付県下有志ノ者共遺憾ニ奉存候何卒今般 御巡幸ノ御

ヲ以テ其師藤田一正一同位階被下置候様仕度平生ノ行状學術ノ正大ナル処御一覽ノ為ニ別紙行状一卷相添此段伏テ奉歎願候拜手謹言

天皇 皇后二十六日ヲ以テ 御發輦殿下へ

行幸啓御發着時刻別紙ノ通りタル旨宮内大臣土方久元ヨリ公達アリ其別紙ハ左ノ如シ

十月二十六日

午前八時十分御出門 鹵簿御遊行御同列同時四十分上野停車場着御 御小憩十五分 同時五十五分御發車

小山駅御停車五十分間汽車中 御昼餐

午後一時五十五分水戸停車場着御

同二時五分 行在所御着輦

鹵簿御同列 劍璽御同車

同二十七日 演習 御覽

同二十八日 同上

御發着時限臨時御治定

同二十九日

午前八時五分 行在所御出門 鹵簿御同列

同時十五分水戸停車場御發車

小山駅御停車五十分間 汽車中 御昼餐

午後一時五十分上野停車場着御

御小憩十分間

同時四十五分 還幸 鹵簿ハ 御遊行 御同列

此日ヨリ毎夜巡查ヲ密行セシメテ殊ニ市内ノ非違ヲ警戒セリ

二十三日 水戸市上下ノ町々ニ於テハ兼テ市長及有志者等ノ注意ニ依リ奉祝ノ為メ徒ラニ華美ヲ競ヒ新奇ヲ衒ヒ却テ猥雜不敬ニ涉ルカ如キヲ勿ラシメントテ【是ヨリ先小梅邸ナル登美宮夫人ハ

行幸ノ事アル由ヲ聞テ大ニ悦ビ其ハ誠ニ千載一遇ノ盛事ナリ然レトモ水戸ハ從來富裕ノ地ニモアラネハ務メテ虚飾ヲ避ケ質素ヲ旨トシ一ニ誠実ノ心ヲ以テ奉迎スル様致シタシトノ御意アリシヲ以テ徳川從三位ハ専ラ之ヲ奉体シ猶家令長谷川清ヨリ其趣ヲ水戸市ナル二三ノ有志者へモ伝ヘラレシト云フ】本町通りハ総テ兩側一齊ニ注連縄ヲ張り亘シ戸々国旗ヲ掲ケ球灯ヲ連掛シ消防夫ヲシテ 御駐輦中昼夜非常ヲ警戒セシメ殊ニ上市向井町入口ニハ巨大ナル緑門ヲ設ケ国旗球灯ヲ以テ之ヲ裝飾セリ其他裏町横町ニ至ル迄市中到リ処毎戸国旗ヲ掲ケ球灯ヲ点シ或ハ灯台ヲ建設シ家々更番ヲ以テ毎夜火ヲ戒ムル等ノ準備粗整フ但上市田見小路ハ同町東端ニ道ヲ挟ミテ高ク大国旗ヲ交又シ其下ニ長サ一丈八尺横一丈二尺ノ一大球灯ヲ釣揚クルノ装置ヲ為シ又当市ニ於ケル道路ノ新開及修繕等ニ悉皆竣功セリ水戸停車場ニテハ同場ヨリ柵町ヘノ出口へ綠葉モテ幅五間ノ大鳥居ヲ造リ其中央へ 聖駕奉迎ト大書セル額ヲ掲ケ又切符売出所ノ入口ヘモ幅三間ノ緑門ヲ設ケ猶各運送店ノ協議ニテ同場内へ數十株ノ桜樹ヲ栽植セリ

水戸市有志者ノ緑岡村千波ノ地ニ於テ打揚クヘキ烟花ハ左ノ如シ

二十六日 御着輦ノ節

烟花二十一発【但早打】

一奉賀万歳祝

一赤烟曳龍

一雷声發黄烟龍

一白烟柳【後ニ赤烟白烟曳黄龍】

一紅白旗二流【長六十尺】

一赤烟青烟雙龍ノ戯

尺二寸径

八寸径

六寸径

尺二寸径

八寸径

八寸径

一黄烟柳

尺二寸径

一青烟黄烟游龍

六寸径

一黄烟水柳

六寸径

一蝸烟

五寸径

一赤烟青烟黄烟龍ノ戯

八寸径

一青烟龍

尺二寸径

一小野道風柳二蛙

六寸径

一金時緋鯉

八寸径

一諫鼓鳥赤烟蝸

六寸径

一黑烟卷龍

尺二寸径

一白菊

五寸径

一黄金曳龍

八寸径

一朱雲

尺二寸径

二十九日

御還幸ノ節

烟花二十一発【但早打】

此他下市吉田神社北麓ニ於テ打揚クルモノヲ合セテ九十余発ナリ

東茨城郡ノ有志者ハ大船六隻ヲ二隻ツ、連繫シテ之ヲ三艘ト為シ各赤白ノ幔幕ヲ張り回シ大國旗ヲ交又シ東茨城郡ト大書セル大旗ヲ懸シ其周圍ニハ赤色ノ球灯ヲ点綴シ之ヲ碧波渺茫タル千波湖ノ中心則チ 行在所ノ西南ニ浮ヘ三艘互ニ數百発ノ烟花ヲ絶間ナク打揚ケ且東南西數千間ニ亘レル対岸ヘ無數ノ球灯ヲ連貫シ毎夜点火シテ 天覽ニ供シ奉ルノ準備ヲ為セリ
那珂郡ノ有志者モ亦那珂川ノ北岸【緑橋ノ上流】ニ於テ烟花數十発ヲ打揚ケテ奉祝ノ意ヲ表スルノ準備ヲ為セリ【以上ノ烟花ハ総テ水戸唯心流ノ火術師橋本某ノ製スル所ナリト云フ】
水戸市士族石川信雄宮田悌之介永井和安井正秀江原弘岡部延芳

岡見忍大井清等常磐公園ヘ 臨御ノ時ヲ期シ旧藩主源烈公ノ創立セル神發流砲術ノ一ナル騎砲ノ技ヲ演シテ 天覽ニ供シ奉ラントテ專ラ其準備ヲ為シ同公園下ヨリ千波村ニ通セル長堤ヲ以テ執行場ト定メタリ
二十四日 行幸啓ニ付昨今兩日中ニ供奉ヲ仰付ラレタル人々ハ左ノ如シ
宮内大臣子爵土方久元侍医池田謙齋侍医岩佐純主殿頭山口正定侍從長侯爵德大寺実則侍從子爵西四辻公業皇后宮大夫子爵香川敬三宮内書記官股野琢車馬監山口融調馬師目賀田雅周侍医局勤務平野好徳【以上ハ昨日】侍医子爵堀河康隆侍從子爵北條氏恭侍從片岡利加侍從試補廣幡忠朝侍從試補日野西勇磨皇后宮亮三宮義胤【以上ハ本日】

主殿頭山口正定ハ御先發トシテ田中某柴田某等ノ属官十數名ト共ニ本日水戸市ヘ來着知事安田定則ト同ク 御通輦ノ御路筋ヲ検分セラレタリ
北白河宮ハ副官陸軍中尉塚田清市等ト同シク水戸市ヘ來着セリ旧水戸藩主德川從三位【松戸公】亦水戸市ヘ來着シ家令長谷川清等ヲシテ奉迎ニ開セル諸般ノ事ヲ担当セシメタリ
県庁ニテハ 行在所出入門鑑木札并県属係員徽章【質紅帛】及行在所門内物品持出証演習地係員徽章【質黃帛】ヲ製シテ係員等ニ交付ス水戸市ノ係員モ亦之ニ倣フ
安田知事ヨリ各部署ニ 御駐輦中万一水戸市内ニ在テ失火等非常ノ事アル時ハ速ニ出府指揮ヲ受クヘキヲ令シ又水戸市及傍近郡村等ニ令シテ 御駐輦中特ニ火ヲ警戒スヘキヲ諭告セリ行在所ナル 玉座及御浴室ヨリ御厩等ニ至ル迄裝飾悉皆整頓セリマタ 玉座近傍ノ庭園ハ高く竹垣ヲ廻ラシ其中ニ種々ノ卉木ヲ栽植シ且數十ノ灯台ヲ建設セリ

安田知事ハ県吏掛札様ヲシテ 行在所中数箇所ノ井水ニ就キ
予メ其水質ヲ検査セシメシニ行在所支閤ヨリ西百間余ノ地ニ在
ル井水尤モ佳良ナルヲ以テ更ニ具申ノ上御膳水ト定メタリ
二十五日 皇族及顯官等ノ旅館ハ左ノ如ク定メタリ

有栖川宮 上上金町 塙載

小松宮

北白川宮

西郷内務大臣

土方宮内大臣

徳川公爵

徳大寺侍從長

鍋嶋侯爵

吉田宮中顧問官

三好監軍一行

山地将一行

川上中将

花房宮中顧問官

高崎宮中顧問官

前田侯爵

東園侍從

御先發官

主馬寮御先發官

軍樂隊

聖上 皇后

行幸啓中ハ県立尋常師範学校ヲ以テ行在所ニ

充テラル、旨ヲ知事ヨリ同学校ニ令達シ又廿八日 聖上県庁

ニ 臨御ノ事ヲ一般二告示セリ

弘道館第十二号室ヲ以テ非常ノ事アルニ際シ臨時 御立退場

ト予定セラレタリ

水戸鐵道会社ニテハ 行幸ニ付拝觀ノ為メ水戸市ヘ來集スル
モノ多キヲ慮リ二十六日ヨリ二十九日迄毎日小山水戸間ニ一回
ツ、臨時汽車ヲ發スル事ト定メタリ

東茨城郡常磐村ヨリ那珂郡青柳ヘ渡セル緑橋ハ過日ノ洪水ニ流
失セシカ今回仮橋ヲ架設シ以テ 行幸拝觀人ノ往來ニ便セリ
二十六日 午後一時五十五分 聖上 皇后水戸停車場

ヘ 御着聲知事安田定則等出テ、同所ニ奉迎シ二時五分ヲ以
テ 行在所ヘ 着御遊サレタリ其停車場 行在所間ノ鹵
簿列ハ左ノ如シ

警部二人【左右並二騎馬】 御旗 近衛將校三人【左右並
二騎馬】 上【御馬車】 御陪乗侍從長 侍從三人【左中右

並二騎馬】 皇后宮【御馬車】 御陪乗女官 女官數人【馬
車同乗】 大夫女官亮【馬車同乗】 有栖川宮北白川宮【馬

車同乗】 宮内大臣侍医書記官【馬車同乗】 警部二人【左
右並二騎馬】 知事【騎馬】

初メ 聖駕ノ停車場ニ 着御シ玉フヤ水戸市及東茨城郡那

珂郡ノ有志者等烟花ヲ發シテ祝砲ニ擬ス其声郊野ニ震フ陸軍樂
隊【御發聲ニ先ツテ水戸市ニ來着セリ】モ亦之ヲ期トシテ軍樂ヲ奏

シ以テ奉祝ノ意ヲ表セリカクテ 天皇 皇后各御料ノ馬車

ニ御サセラレ徐々 行在所ヘ轎ラセ玉フ是日ヤ霖雨全ク霽レ

一天晴朗始シト陽和三月ノ候ニ似タリサレハ早朝ヨリ停車場近

傍及御道筋ノ兩側ニ群聚セル有志ノ奉迎者及拝觀ノ士女其數幾

千萬ナルヲ知ルヘカラス然レトモ通御ノ時ニ際テ能ク警官ノ指

揮ニ從ヒ毫モ喧雜ノ事ナク肅々路傍ニ整列シテ各誠敬ノ意ヲ表

シ殊ニ 天顏ノ麗シキヲ拝シ奉リテ感喜ノ余或ハ涕ヲ垂ル、

父老モ多カリシト云フサテ其奉迎トシテ停車場前ヨリ柵町銀杏

町二至ル間ニ参列セシ人々ハ右側ニハ高等官同夫人有位帶勲者
奏任待遇者司令部員判任官市長以下吏員町村吏員行幸啓御用係
員市會議員町村會議員神官僧侶銀行会社社員代言人醫師德行者勸
業教育篤志者高齢者左側ニハ貴族院議員衆議院議員県會議員等
凡ソ数百人ナリ又師範中学両校及高等尋常諸小学校水戸市内及
東茨城郡珂久慈三郡併セテ四十四校職員生徒四千七百六十二人
並ニ水戸幼稚園生徒數十人共ニ行在所構外ニ整列シテ君カ代ヲ
唱フ其昔洋々以テ 聖壽ノ無窮ヲ祝シ奉レリ

御着輦ノ後少時御休憩遊サレ直ニ奏任以上ノ県官裁判官各郡長
技師等ヘ拝謁仰セテラレタリ其人々ハ県官ニハ知事安田定則書
記官磯貝静藏参事官藤田健警部長今井兼善収税長永田盛信裁判
官ニハ水戸地方裁判所長北條元利判事鴻巣盛雄同三浦精明同山
本守時同内林永成同大越泰次郎同田中岩之助同牧山榮樹同折原
吉之助同山本錚之助同坂本小金同志水弘馬同高桑登平同中村元
吉同田村泰三同黒田文八郎同前川房次郎検事正山根恭太検事楢
崎景佑同横田信謹同河嶋正藏同蔭山政記同野々山茂同小野篤次
郎水戸区裁判所判事茂手木慶信同高橋昇同古川正茂太田区裁判
所判事平岡信次郎同朝倉政通同大村直道土浦区裁判所判事松大
路哲三郎同松井助一麻生区裁判所判事三田智周検事中田尚広
龍ヶ崎区裁判所判事西村重敏同蒲生俊孝検事本田親利武官ニハ
水戸大隊区司令官心得河北祐充同副官山口貞真郡長ニハ東茨城
郡長手塚任西茨城郡長牧野正倫郡那珂郡長高橋諸隨久慈郡長豊田
滋多賀郡長雨宮広厚真壁郡長諏訪棟鹿嶋郡長中川忠純行方郡長
福田晋新治郡長加藤敬頼筑波郡長太田時敏信太河内郡長小林大
次郎西葛飾猿嶋郡長河田景雄結城岡田豊田郡長宮川正治北相馬
郡長尾崎逸足及ヒ茨城県尋常師範学校校長越智直等ナリト云フ
徳川從三位ヨリ 天皇及ヒ 皇后宮ヘ左ノ物品ヲ進献セリ

一刀	祖父齊昭作【長二尺三寸四分】	一振
一馬	大能牧場産【下二出ツ】	一頭
一煙草	水戸産	一箱
一生鮭	五尺	一台
一松茸	西山産	一籠
以上ハ	聖上ヘ進献	
一明倫歌集かるた		一箱
一煙草	水戸産	一箱
一生鮭	五尺	一台
一殿中菓子		一箱

以上ハ

皇后宮ヘ進献

東茨城郡磯浜町有志者百二十一人ニハ同町大洗下ナル御料地ニ
座セル鰻三十箇ト那珂川ノ鮭五尾トヲ生キタルマ、 天覧ニ
供シ奉ラントテ予テ養ヒ置キシヲ那珂川口ヨリ船ニテ運漕シ本
日午後五時頃更ニ新調ノ小船二隻【木質檣堅六尺幅五寸厚サ一寸五
分底ヘ小車ヲ附シテ推挽ニ便セリ】ニ移シ町長浅井光政ヲ総代トシ
テ其鮭魚ノ潑利トシテ游泳スル様ヲ 天覧ニ供シ奉レリ終テ
内膳課ヘ其調理ヲ命セサセラレ有志者共ヘ酒肴料トシテ金拾五
円下シ賜ハリタリ

侍從北條氏恭古書画古器物及物産陳列場ヘ来リテ列品ヲ一覽シ
小梅邸常磐神社彰考館等ノ出品及水戸名士ノ書画ヲ物産品ト共
ニ 玉座ヘ差出シ 天覧ニ供スヘシ此処ニ 臨御ノ事或
ハ叶ヒ難キヲ以テナリト命セリ因テ係員ハ直チニ書画數十幅ヲ
撰ンテ物産品ト共ニ侍從ヲ経テ 玉座ヘ進達セリ

此日那珂郡湊町有志者ニハ二隻ノ河船ニ乗シ奉迎ト大書セル大
旗ヲ建テ辰ノ口ヨリ那珂川ヲ溯リ杉山ニテ上陸シ弘道館ノ傍ニ
整列シテ奉迎シ又通御ノ沿道ニ当レル結城川嶋下館若瀬笠間六

戸等諸町村ノ有志者吏員議員及小学校生徒等各其停車場ニ於テ奉迎シ種々ノ裝飾ヲ為シ又ハ烟花ヲ発シテ祝意ヲ表シ奉レリ又新治郡土浦石岡等其他諸町村吏員議員小学校生徒等モ亦明日同郡成井村へ臨御ノ時ヲ期シ皆同所ニ出テ、奉迎セラル、予定ナリト云フ

二十七日 午前八時五分

聖上 皇后并ニ 行在所ヲ御

発軋水戸停車場ヨリ汽車ニ御シ新治郡成井原近衛兵演習地ニ臨御遊ハサル鹵簿列概ネ 御着輦ノ儀ニ同シ午後二時更ニ水

戸停車場へ着御同場ヨリ右へ棚町へ出右へ左へ旧不開門ヨリ行在所へ還御【御発着毎ニ停車場ニ於テ陸軍近衛軍隊ノ奏樂アリ】

還御ノ後徳川從三位ハ進献ノ為メ大能牧場ノ産ナル馬牝牡六頭并駒二頭ヲ 行在所御庭内へ率キ入レシメ 天覽ニ供シ奉

リシニ直チニ 玉座ノ東方ナル御窻ヲ開カセラレ 親シク雜種茸毛ノ三才ナルヲ一頭 御撰扨遊サレシト云フ

聖上ハ侍從堀河康隆ヲシテ 皇后宮ハ亮三宮義胤ヲシテ並ニ常磐神社へ奉幣セシム【金十二圓】尋テ兩使ヲシテ鎮靈社へ祭案

料二百圓ヲ下賜セシム 西四辻侍從ハ昨二十六日午後四時 内命ヲ奉シ梶山本正備

ヲ隨ヘ旧水戸藩主累代ノ墳墓地ナル久慈郡瑞龍山へ趣キ先ツ源義公ノ壽藏碑【梅里先生之墓ト題セル碑】ヲ一覽シ更ニ源義公源烈

公等ノ墓ニ至リ又西山ノ旧莊ヲ訪ヒ源義公ノ塑像ヲ一覽シ其目撃スル処ヲ一々描写シ來リテ本日参内シ備サニ奏上セラレシト

云フ 北川宮ハ那珂郡青柳村菊池可ノ蛙鱒採卵場【上市八幡町八幡社ノ下】ニ臨ミ採卵孵化方法及魚苗蕃殖ノ事ヲ問ハセラレ

更ニ那珂川ノ漁場へ行キ投網等ヲ一覽シ帰館ノ後可父父七郎兵衛ニ謁ヲ許サレ殊ニ御紋付ノ盃及金若干ヲ賜ハレリ此日同人祖

先來鮭漁ニ関セル沿革理由書ヲ呈シ又漁獲ノ鮭魚教尾ヲ献セラ

レシト云フ

古書画古器物陳列場係ヨリ其筋ヲ経テ 皇后宮ノ 玉座

へ藤田彪会沢安等ノ著書東湖遺稿新論廸彝篇草偃和言常陸帶回天詩史弘道館記述義ノ七部ヲ各ニ部ツ、進達セリ昨夕珠ニ

内命ヲ伝ヘラレシヲ以テナリ

旧六戸藩主子爵松平頼安ハ 天氣伺トシテ参内セリ 鹿嶋神社宮司大谷秀実大洗磯前神社宮司田口秀実常磐神社宮司

岡本正靖等昨二十六日ハ 行在所ニ於テ 皇后宮ニ拝謁シ本日ハ 御発輦ニ際シ 行在所御車寄ニ於テ 聖上ニ謁

シ奉レリ

午後四時過 聖上ニハ古書画古器物及物産陳列場へ

列品ニ就キ 天覽遊サレ尋テ 皇后宮モ 臨御殊ニ源義

公源烈公其他水戸名士ノ手ニ成リタル物ヲ 觀感遊ハサレシト云フ

寺門謹ハ其所藏ナル故会沢恒蔵自筆ノ新論稿本二冊ヲ 聖上へ進献センコトヲ土方宮内大臣ニ請ヒシニ特例ヲ以テ直チニ聽

許セラレ金五十圓ヲ賞賜セラレタリ栗田寛ハ其著神祇志料二部へ上表一篇ヲ添ヘ山口主殿頭ノ手ヲ経テ 天皇及ヒ 皇后

宮へ進献セリ其上表ニ曰ク

伏テ惟ルニ上古

神聖ノ天下ヲ治ル神ヲ敬シテ而シテ武ヲ奮ヒ武ヲ奮テ而シテ神ヲ敬ス敬神ノ義行ハレテ天下其仁ヲ被

リ奮武ノ政施シテ万民其威ニ服ス盛ナリト謂ハサルヘケンヤ夫我 天祖天照大神ノ天原ヲ馭スルヤ五穀ノ種ヲ獲テ喜テ

曰此物ヤ顯見蒼生食テ活ヘシト之ヲ狭田長田ニ殖シム其蠶桑ヲ獲ルニ当テハ織女ヲシテ之ヲ織殿ニ織ラシメ以テ神衣トセ

ラル万民食フ所ノ稻ハ狭田長田ノ余リニシテ蒼生衣ル所ノ服ハ織殿ノ神衣ノ余リナリ天下誰カ其德沢ニ浴セサル者アラン

是ニ於テ聖子 神孫大嘗ノ祀ヲ設ケテ報本反始ノ礼興ル皇
孫ノ下土ニ降ルヤ健御雷経津主ニ神ヲシテ威稜ヲ中国ニ耀
カサシム大己貴順服シ健南方稽首シ惡鬼邪神肅然迹ヲ斂ム
皇威遠ク東奥ノ阪ニ及フ賈区孰カ風化ニ順ハサル者アラン是
ニ於テ 列祖 列宗舊武ノ政ヲ布テ詰戎方行ノ典拳ル何
矧ンヤ 天祖授璽ノ詔三種ノ 神器ヲ以テ万世天位ノ信
トシ君臣ノ分定ル念祖ノ 勅一系ノ 皇統ヲ以テ天壤ト
無疆ヲ祝シ父子ノ倫淳シ叙聖文武ナル我 天皇陛下ハ実ニ
赫々タル 天祖ノ胤傳々驪虞ノ民ハ実ニ英烈ナル 天神
ノ裔 天祖ノ胤ヲ以テ 親シク大祀ノ礼ヲ 天祖ニ盡
シ玉フトキハ天下其 至仁ヲ仰カン 天神ノ裔ヲシテ各
其孝敬ノ義ヲ 天神ニ致サシムルトキハ民德其淳樸ニ帰セ
ン臣先世以來此茨城ノ地ニ貫シ生ヲ受クルヤ晚シ故ニ旧藩主
源光圀文運蔚興ノ時ニ遭遇セスト雖モ頗ル尊王正名ノ義ヲ聞
テ私ニ諸ヲ人ニ淑シ幸ヒニ彰考ノ館ニ仕ヘ文臣ノ末ニ列シ職
ヲ奉スル浅キモ先主源齊昭励精図治ノ日ニ際会シ粗敬神崇儒
ノ説ヲ知ルヲ得テ以テ諸ヲ神ニ書セリ嘗テ神道ノ衰頹シテ異
教ノ蔓延スルヲ慨シ窃カニ自ラ揣ラス 神聖ノ大道ヲ明カ
ニシテ皇業ノ隆盛ヲ裨ルニ意アリ乃チ心ヲ神典ニ潜メ思フ聖
經ニ凝シ研究貫穿浸漸旁通神祇志料十七卷ヲ編シ嚮キニ之ヲ
活刷ニ附シ以テ天下ニ質ス今也忝ク 聖駕ノ東巡ニ際スル
モ愧ラクハ非才ノ貢獻ニ物ナキヲ唯臣硯田ニ耕シテ食ヒ文章
ヲ織テ衣ル是亦狭田織殿ノ余沢ナリ安ソ其作ル所ノ書ヲ獻
シテ 聖恩ノ万一二報セサルヲ得ン謹テ志料ヲ装テ之
ヲ 行在所ニ進ム伏テ願クハ 天皇陛下 神聖ノ大道
ヲ明カニシ乾剛ノ威ヲ耀シ神ヲ敬シテ武ヲ奮ヒ武ヲ奮テ神ヲ
敬シ敬神ノ義行ハレテ天下其 仁ヲ被リ奮武ノ政布テ万民

其 威ニ服シ 至仁至徳大八洲ノ内ニ磅礴シ延テ遠ク欧
米ノ外ニ光被セン事ヲ臣戰々兢々ノ至リニ堪ヘス
此夕市長服部正義知事安田定則ト共ニ水戸市民ノ総代トシテ夜
宴ヲ弘道館ニ張リ供奉ノ皇族及顯官ヲ招テ之ヲ饗セリ其来会セ
ルモノ皇族ニハ有栖川宮北白川宮頭官ニハ土方宮内大臣徳大寺
侍從長三好監軍徳川公爵山土地中将鍋嶋侯爵花房宮中顧問官香川
皇后宮大夫高崎宮中顧問官三宮皇后宮亮山口主殿頭西四辻侍從
前田侯爵児玉少將徳川從三位長崎宮内大臣秘書官楠瀬少佐等ナ
リ宴間余興トシテ陸軍近衛楽隊ノ奏樂アリ同夜九時ニ至テ宴全
ク終ハレリ安田知事ハ更ニ西郷内務大臣香川皇后宮太夫山口主
殿頭股野宮内書記官高崎樺密顧問官等ヲ自邸ニ招待シテ饗応セ
ラレ藤田参事官永田収稅長茨城日報社長大関俊徳等モ亦其席ニ
陪セリト云フ
二十八日 聖上 皇后並ニ 行在所ヲ御発軔成井原觀兵式
ニ 臨御シ玉フ其儀仗及時刻前日ノ如シ午後四時十五分復水
戸停車場へ着御 聖上ハ同場ヨリ右へ柵町ニ出左へ銀杏町右
へ白銀町右へ県庁ニ臨幸遊サレ 皇后宮ハ同場ヨリ柵町銀杏
町南町泉町大工町向井町ヲ過キ左へ川和田横町ニ出畑中ヲ斜ニ
左へ新道通り常磐公園へ 行啓遊ハサレ御帰途更ニ水戸公園
へ 臨御シ玉ヘリ〔常磐公園ハ所謂偕樂園水戸公園ハ即チ弘道館ノ
在ル所ニシテ共ニ旧藩主源烈公ノ創設ニ係レリ〕初メ知事安田定則ヨ
リ常磐公園へ 臨幸在ラセラルコトヲ請ヒ奉リシニ聖上ニ
ハ其絶景ノ地タル由ハ夙ニ 聞召サル、所ナレトモ親兵等ノ
御事御多端ニ在ラセラル、ニ因リ臨御ノ請願ハ到底納レサセ玉
ハサルモ 皇后宮ニハ御遊覧遊ハサルヘキ由ノ 内命アリ
シヲ以テ徳川從三位ハ其家令扶等ニ命シ予メ好文亭内外ノ裝飾
等諸般ノ準備ニ心ヲ盡サレシ力ニ至テ 行啓ノ事公然仰セ

出サレタリ

聖上ノ県庁ニ 臨幸シ玉フヤ知事安田定則ハ内務大臣西郷從道ト共ニ之ヲ庁堂ノ前ニ奉迎シ庁堂ノ東樓ニ導キ奉ル 聖上直チニ 玉座ニ御シ玉フ定則進ンテ頌徳表ヲ捧呈セリ其文ニ曰ク

臣定則伏テ惟ミルニ在昔常綏遠ク関外ニ在リ化ニ沐スル殊ナラサルモ未タ日月ノ儀範ヲ拝セス歴世ノ久シキ僅ニ 景行帝ノ 玉趾ヲ留ム選都以來近ク 鳳輦ノ轂下ニ接シ古ノ僻壤今ヤ則畿甸ニ居ル歳庚寅ニ次リ候省歛ニ際シ昭陽光ヲ回シ新ニ衣被ノ榮ヲ蒙ル天沢露ヲ降シ偏ニ浹洽ノ恩ヲ承ク是実ニ千載ノ一遇曠世ノ一大盛事臣定則乏ヲ知県ニ承ケ遇ヒ難キノ盛典ニ値フ豈 聖化ヲ贊揚シ以テ黎庶ノ至情ヲ表セサルヘケンヤ恭シク惟ミルニ聴叙神聖 皇帝陛下武ハ克ク夙ニ中興ノ偉績ヲ開キ以テ 祖業ヲ恢弘シ文ハ能ク憲法ノ大典ヲ創定シ面シテ 皇化ヲ拡張ス其威ハ四海ニ震ヒ其徳ハ方内ニ偏シ一視同仁遐迩アルヲナシ顧フニ本県ノ如キ京ニ密近シ 化ヲ被ムル最モ厚ク沢ヲ承ク殊ニ饒シ先者水戸災ニ罹ルヤ直ニ内帑ヲ出シ急ヲ救ヒ国家慶アル 恩賜ヲ推シテ老ヲ養フ尋テ殉難ヲ弔シ配祀ヲ靖国ニ賜ヒ逆家ノ罪ヲ貰シ其土籍ニ復スルヲ許サル前後 恩ヲ蒙ル殆ント万千ヲ以テ数フヘシ 流化其レ遠ク生民ヲ潤シ枯骨ニ及フ地方ノ士民誰カ感泣拝戴セサラン今又簡閲講武 車駕因テ県治ニ臨ム省方問俗何ソ其レ民ヲ思フノ深キ嗚呼撫宇軫情美ヲ 仁徳帝ニ嬪シ跋涉勞ヲ親カラニシ躅ヲ 景行帝ノ行ニ追フ宜ナリ白髮手ヲ額ニシテ喜テ翠華ヲ迎ヒ青衿音ヲ同フシ恭シク唱歌ヲ唱フ臣定則功河潤ナク徒ラニ雲霓ヲ仰ク来蘇是頼ル華祝已ムヘケンヤ因テ盛典ヲ祝シ聊カ鄙衷ヲ陳ス頌徳敢テ溢辭セス

恐ラクハ 聖明ヲ汚ス有ランコトヲ奏文雅鏤ヲ事トセス冀クハ以テ至誠ヲ表スルニ足ラン臣定則誠恐恐惶謹テ表ヲ奉シテ以聞ス

次テ県治ノ概要ヲ奏上シ又本歳管内水害ノ景況並管下孝節者【明治七年ヨリ二十三年ニ至ルマテ褒賞ヲ蒙リシモノ百七十五人】ノ姓名ヲ具奏シ式畢テ知事又御先導庁堂前ニ至テ奉送セリ其御帰路ハ県庁ヨリ右ヘ外廓ニ沿ヒ右ヘ水戸公園裏通り右ヘ同公園ニ沿ヒ旧弘道館前左ヘ橋ヲ渡リ 行在所ヘ還御遊ハサレタリ 皇后宮ノ偕樂園好文亭ニ 臨ミ玉フヤ【主殿頭山口正定御先導】其將ニ亭ニ上リ玉ハントスルトキ有名ナル好文亭ハ即チ是カト 仰セラレ先ツ樂壽楼上ヨリ御眺望遊ハサレ実ニ珍ラシキ景色ナリト 仰セラレ種々正定ニ御尋ネノ御事ナトアリテ後徐ロニ樓ヲ下リ 玉歩ヲ移シテ庭上ヨリ園中ニ出テ南崖ニ聳立セル老松ノ下石枰ノ設ケアル辺ヲ 御心地ヨゲニ御逍遙中園下ノ長堤ニテ執行セル水戸士族ノ騎砲ノ技ヲモ御一覽遊ハサレ復タ好文亭ヘ入ラセラレ杉戸ニ記シタル韵字又ハ假名遣ノ格ナト 御目ニ留リ烈公用心ノ至レルヲ賞サセラレ更ニ亭上東南角ナル板縁ノ広間ニ設ケタル 玉座ニ就カセ玉フ初メ樓上ニ 玉座ヲ設ケタルニ却テ下ナル広間ヲ御好ミ遊ハサレシニ因テ園中御遊覽中 玉座ヲ此ニ移シ奉レリヤカテ徳川從三位ヲ 御前ヘ召シ 御手ツカラ御菓子ヲ賜ハリ此亭ハ斉昭ノ創設ナリト聞ケルカ庭園ノ雅致ナル眺望ノ絶勝ナル何レモ言ハシ方ナキ趣アリ且ツ斉昭ノ屢遊息セシ地ト思ヘハイト、昔ノ忍バル、ナリナト御懇ナル 御言葉アリ時ニ日既ニ西ニ沈ミ遠山近水漸ク暮煙靄鬱ノ中ニ没セリ然レトモ千波湖ノ対岸ナル幾千ノ球灯ト湖心ノ船中ヨリ打揚クル煙花ト燦爛共ニ碧浪ヲ照シテ頗ル奇観ナルニ大月皎々トシテ東天ニ上リ【陰曆九月十五夜】

更ニ一層ノ風色ヲ添ヘシカハ 皇后殊ニ御賞観遊ハサレ正定
ニ 仰セラル、様齊昭カ此ノ眺望ノ勝地ヲ占メテ亭園ヲ造リ
政務ノ余暇ニ老人又ハ詩歌ノ客ヲ召シ雅宴ヲ関キテ偕ニ楽マレ
シトノコトニテ其平生ノ心シラヒモ知ラレヌ且ツ是マテ諸所ノ
公園及諸侯伯ノ別墅等ニモ遊ヒシカ徒ラニ華美ヲノミ競ヘルモ
ノ多シ然ルニ此絶勝ノ地ニ此ノ素朴ナル結構ヲ為セルハ流石ニ
齊昭ナリトテ 御感斜メナラス又今ハ此亭上ニテ猥雑ナル宴
会ナト催スコトアル由 聞召サレサテサテ似ツカハシカラヌ
コトカナト 仰セラレシト云フカクテ香川太夫ヨリ 還啓
ヲ促シ奉リシニカ、ル名所ハ去ルニ忍ヒス復来シコトモ難ケレ
ハ先ツ待タレト 仰セラレ御茶ナト 聞召サレツ、此
ニ在マスコト殆ント二時間ニシテ 出御ニ臨ミ庭上ナル四季
桜ノ美ハシク咲出タルヲ愛テ玉ヒアハレ一枝手折ラセテ 天
覧ニ供シ參ラセハヤト思ヘト障リ無シヤト 仰セラレシカハ
直チニ手折りテ奉リシニ 御車ニ載セサセ玉ヒ【宮城へ還幸
ノ時モ花瓶ニ挿シタルマ、御持タセ遊サレシト云フ】偕樂園ノ碑ヲモ
御一覽遊サレテ後同園ヲ 出御畑中ノ新道ヲ過キ斜メニ右ヘ
河和田横町ヲ經向井町大工町ヲ過キ泉町ヨリ左ヘ藤坂町通り右
ヘ裏五軒町角ヲ直線ニ仲町通り県庁外郭ニ行キ当リ左ヘ白銀町
通り右ヘ水戸公園裏通り右ヘ同園内ヘ入御時ニ午後七時二分ナ
リ是ヨリ前キ園内及諸殿宇等悉ク球灯ヲ以テ裝飾シ館記ノ大碑
ノ前後二十基ノ灯台ヲ建設シ其他九箇所ニ燎火ヲ燒キ園中恰モ
白日ノ如シカクテ八卦堂前ニテ 御馬車ヲ下ラセラレ其準備
ノ整ヒタルヲ賞テサセ玉ヒ直チニ堂内ナル弘道館記ノ大碑ヲ御
一覽遊ハサレ是コソ当昔天下ノ士氣ヲ作興シタル碑文ニテアリ
ケレト 仰セラレ御手ツカラ 御前ナル燭器ヲ執リ玉ヒテ
全文ヲ御熟覽遊ハサレ 御感歎ノ余碑ノ前後ヲ幾回モ御巡リ

遊ハサレ殆ント去リ玉フニ忍ヒサルモノ、如シ此時山口正定堂
扉ノ破損セル処ヲ指シテ此ハ明治戊辰ノ乱砲撃ニ罹レルナリ辛
フシテ碑面ニ觸レシテ此処ニ当レリナト聞エ奉リシニ 皇
后宮鳴呼危カリシサテサテ幸ナリキト 仰セラレ又 聖上
ニハ彼ノ程遠カラヌ県庁ヘ 御臨幸遊ハサレシ由ナルニ此ノ
碑ヲ 觀覽遊ハサレザリシハイト遺憾ナリキト仰セラレ堂中
ニ在マスコト五十分余ニシテ更ニ堂ノ外面ヨリ其構造ヲ 覽
ソナハセラレ何ノ裝飾ヲモ為サス只八卦ヲ附シタルハ面白シト
御賞観遊ハサレ其八卦ノ位置ヨリ 御心付カセラレ玉ヒケン
堂ノ前後ノ方位ヲ 御尋不遊サレシト云フ又種梅記ノ碑ヲモ
御一覽遊ハサレ其処ヨリ玄関ノ方ナル殿堂ヲ見玉ヒ彼処ハ弘道
館ノ残リタル処ニヤ一見セマホシト仰セラレシヲ供奉ノ人々今
ハ荒敗シテ見玉フヘキ処ニモ候ハスナト云ヒツ、還御ヲ促シ奉
レリ此時今ハ彼ノ屋宇ハ何ヲナス所トナリ居ルヤトノ 御尋
ニ幼稚園ト為シ日々幼童ノ集マル処ニ供シ置ク由答ヒ奉リシニ
其ハヨキコトナリ嘸愛ラシキコトナラント仰セラレカクテ八時
頃 御馬車ニ御サセラレ公園裏通りヨリ右ヘ弘道館前通り左
ヘ橋ヲ渡リ 行在所ヘ還御遊ハサレ 玉座ニ就カセ玉フヤ
直チニ 御手ツカラ美麗ナル御菓子ヲ出サセ玉ヒ之ヲ弘道館
ニ集マレレ幼稚園生徒等ニ頒チ與ヘテヨトテ賜ハリシト云フ
皇后宮ニハ 行在所ヘ還啓ノ後香川敬三山口正定ノ二人ヲ召
サセラレ齊昭ノ忠誠ハ勿論水戸藩代々ノ勤王誠ニ感シ入ルトノ
厚キ 御恩言ヲ賜ハリシヲ以テ二人ハ辱ケナサノ余リ覚ヘス
感泣ヲ拭ヒツ、 御前ヲ退出セラレシト云フ
皇后宮ニハ復徳川從三位ヲ召シ玉ヒテ此度 行幸在ラセラレ
シニ就テハ何クレト心配ニ預リ就中好文亭迎 駕ノ設ケ又ハ
行在所ヘハ先人ノ遺物ヲ色々陳列シテ 覽觀ニ供セラレ実ニ

殘ル方ナキモテナシイト嬉シク思フニ土産ノ物サヘ種々奉ラレシハ殊ニ悦ハシナト御懇篤ナル 御言葉ヲ賜ハリ尚聖上ヨリハ桐御紋附ノ花瓶一対白縮緬二疋 皇后宮ヨリハ金盃一個紅白縮緬二疋御菓子等ヲ下シ賜ハリタリ

皇后宮ハ更ニ藤田健ヲ 行在所ニ召シテ拝謁ヲ賜ハリ懇々仰セラル、様今日ハ好キ折柄ナレハ汝ノ母ヲ見ント樂シク思ヒシニ病氣ニテ出ラレサリシハ殊ニ本意ナキ事ナリキ折角養生セヨト申スヘシ此品ハ 親シク與ヘント思ヒタリシナレト今汝ニ付スルナリ善キニ慰メテヨトテ白絹一疋ヘ金百円ヲ添ヘテ下シ賜ハリタリ健鞠躬進シテ之ヲ拝受シ直チニ帰宅シテ母ノ既ニ眠ニ就ケルヲ喚ヒ起シ優渥ナル 御恩旨ヲ備サニ伝ヘ御下賜ノ物品ヲ戴カシメ一家団欒俱ニ感泣ニ咽ヒタリ初山口正定來リテ健ニ告ケテ云ク 皇后宮 仰セラレケルハ贈正四位藤田誠之進ノ妻ハ汝ノ叔母ニシテ今猶存生ト聞ケリサレハ好文亭へ行啓ノ折ヲ以テ謁見ヲ賜ハルヘシ故ニ予メ庭前ヘ出居ル様トノ御内慮ニマシマセハ其準備アルヘシト而レトモ如何セン同人ハ七十六ノ高齢ニテ久シク中風症ニ罹レルカ上ニ会マ瘡癘毒ニ侵サレ起居意ノ如クナラス打臥シタルマ、ニテ一步モ進ム能ハサル時ナレハ駕籠ノ手当等何クレト工夫ヲ凝セシモ 御前ニ於テ或ハ拜跪ノ礼ヲ欠クカ如キコトノアリタランニハ中々ニ恐多キ事ナレハトテ已ムヲ得ス其趣ヲ更ニ正定ヨリ聞エ上ケシカニニ至テ計ラスモ殊ニ健ヲ召シテ此優渥ナル 恩旨ヲ垂レサセ玉ヒシト云フ

又水戸市ヘ金百円師範学校及演習地村々ヘ各金三百円好文亭保存費金二百円水戸鐵道会社ヘ金百円ヲ下シ賜ハリ又特ニ旧水戸藩士贈正四位故藤田誠之進故藤田次郎左衛門故会沢但藏故戸田忠大夫ノ尊王ノ誠志ヲ 御追賞遊ハサル、旨ヲ以テ宮内省ヨ

リ其遺族ヘ各祭料ヲ賜ハリタリ其文各左ノ如シ
鳳ニ尊 王ノ大義ヲ唱ヒ力ヲ国事ニ盡シ候段 御追想被為在今般 行幸ニ際シ 思召ヲ以テ祭料トシテ二百円下賜候事

県民年八十以上ノ高齢者六千八百二人ニ養老金若干百歳以上三人ニハ特ニ真綿一把ヲ賜フ又県官ノ 行幸啓御用係ノ者ニ酒肴料若干ヲ賜ハリタリ
皇后宮弘道館記ノ碑ヲ 御覽ノ時此碑ヲ摺リタルモノアラハ見マホシト 仰セラレシニ因リ水戸市士族古川哲ノ所藏ナル其搨本ヲ某侍從ヨリ 玉座ヘ差出セシニ頗ル 御心ニ適ハセラレ宮城ヘ還啓ノ後「裴漢ヲ加ヘテ 玉座ヘ掛ケサセ玉ヒシト云フ」宮中ヨリ其料トシテ古川哲ヘ白絹一匹ヲ下賜セラレタリ本県撰出ノ衆議院議員渡辺治松延竑立川興大津淳一郎飯村丈三郎赤松新右衛門色川三郎兵衛関口八兵衛等ヨリ左ノ賀表「青山延壽ノ起草ニ係レリ」ヲ奉呈セリ

伏以維茲田邦、実自「神世」、皇風未「被」、異俗爲「居」、神略經營、遼思「武甕雷之駿烈」、威靈烜赫、長仰「師靈劍之神鋒」、歷世幾年、茲迄「十代」、窮荒逆「命」、猖獗侵「疆」、乃「崇神天皇、爰出「師四道」、武淳川別、寔作「東方督將」、建借馬徒、克「平」辺地元兇、及「景行朝、有「東夷乱」、天祚「王家、実生「神勇之皇子、躬侵「風露、定猖狂之蝦夷、爰旋大旆、巡「省北郷、停鑣於新治、遺「漬袖之佳名、天皇將「覽、遺蹤、幸臨「東裔、駐「蹕於日向、延「浮洲之雅賞、瑞靄氤氳、仰「皇、子之祠、青波浩渺、存「霞郷之浦、孰謂僻陬遐遠、魑魅爲「群、那知神聖經綸、仁厚作「郷、古者遠隣荒服、駢程動弥「二句、而今近「猷、鐵道纔「半日、伏念、天皇陛下中興之英主、天縱「欽英、克類「干、崇神帝、規模宏遠、亦比「於

御肇朝、選_レ將出師、奥羽平以櫓槍滅、敬_レ神布教、陰陽調而年穀豐、慕_レ倭武王神勇、躬_レ宰_レ貔貅、旆_レ旌高颺、閱_レ武事於茨城之郊、追_レ景行帝偉圖、親_レ停_レ車駕、徒御不_レ驚、察_レ下情於水戸之市、況又_レ皇后陛下偕並_レ鑾車、謹求_レ古典、久廢_レ盛儀、仲_レ哀帝西征、有_レ神功贊成、倭武王東伐、有_レ橘媛輔佐、若夫茨城之為_レ郡、實是一國之中央、王室盛時、親王遙領_レ太守、國衙代治、石岡常置_レ介掾、南乃鹿嶋、有_レ武甕雷之神祠、東則蒼浪、有_レ魚鹽鱗族之富、西有_レ筑波嶽、高標_レ濱國之望、北有_レ勿來関、嘗備_レ毛人之乱、而今置_レ県治於水戸、分_レ郡署於市村、版籍一_レ拾二万三千六百余戸、人口六拾五万九千九百余名、宣布_レ德化、県有_レ賢令、遵_レ奉令条、郡有_レ良長、年号_レ明治、万民鼓腹、咸沐_レ明治之風、県曰_レ茨城、千戸晏眠、何要_レ茨城之警、年仍大稔、或憂_レ水害、乘除相償、黎民曷嘗阻饑、時は孟冬、節帶_レ春和、愁苦已過、郷里勿聞_レ推食、雨師歛_レ跡、風伯掃_レ塵、四達之衢、方軌之達、垂髻戴白、欣舞驩迎、抱_レ螭蟄之微信、望_レ日月之末光、臣等草莽賤微、旧郷貴族、祖先咸浴_レ先皇德化、苗裔復遭_レ陛下休明、願臣等不肖、謬受_レ衆人之推挾、敢叨_レ国会之議員、伏念_レ陛下享年_レ千年之隆典、繼_レ先皇之宏圖、臣等幸_レ全方今之盛際、代_レ百姓之祝辭、不_レ啻_レ恭黎懼_レ、鳥獸舞翔、窮_レ草生_レ水、老木結_レ花、那珂之水、洋洋而愈碧、筑波之山、矗々而滋蒼、臣等綴_レ淺薄之蕪辭、謹祝_レ天皇陛下、皇后陛下、壽考万年、陛下非_レ遙、天威咫尺、無_レ任_レ激切屏宮之至、臣等誠懼誠_レ、頓首頓首謹言、

又管内士民_レ行幸ヲ奉祝スルノ表文及ヒ詩歌ヲ捧ケン_レヲ請フモノ四十余人県庁之ヲ_レ行在所内事課ヘ送達セリ

県民八十以上高齢ノ婦人手自_レ紡織セシ繭綿ノ両絲或ハ木綿等

ヲ進献センコトヲ請フ宮内省特ニ之ヲ聴ルス_レ行幸ニ方リテハ前例衆庶ヲ進献ヲ許サス今此聴納アルハ盖高齢者ノ篤志ヲ嘉ミセラル、ニ由ルナリ

主殿頭山口正定ヨリ水戸市ノ彫刻師北川北仙ノ製作セル純銀ノ枝折ニ枚【一ハ稻穂ニ雀一ハ菊花ヲ彫刻セルモノ】ヲ献納セラレシト云フ

本県物産中宮内省御用品トシテ御買上ノ栄ヲ蒙リタルモノハ左ノ如シ

一 寒水石製文鎮	多賀郡	長山佐七製
一 寒水石製皿	同上	同上
一 斑石製文鎮	久慈郡	同上
一 鉄製彈丸形茶釜	真壁郡	小田部庄左衛門製
一 鉄製蟹二流水高彫花筒	水戸市	北川北仙製
一 銀獅子鈕鉄鞠形香爐	同上	同上
一 銀製銃付狸形香爐	水戸市	小泉勝親製
一 鉄大黒形置物	同上	同上
一 国壽石硯	久慈郡	大金久兵衛製
一 紙卷烟草	水戸市	丸水商会製
一 人丸形置物	同上	町田官次郎製
一 南瓜形菓子器	同上	同上
一 手遊品	水戸産	同上
一 結城紬	結城郡	結城織物会社製
一 袋田四度瀑布図	水戸市	松平俊雄画
一 偕樂園春暁之図	同上	同上
一 花鳥之図	同	富永栄画

此日西郷内務大臣ハ水戸市役所東茨城郡役所水戸警察署及水戸

公園等ヲ巡覽セリ

二十九日 天皇

皇后俱ニ午前八時五分ヲ以テ水戸停車場

御発軔宮城へ

御還幸ノ途ニ上ラセ玉フ知事安田定則ハ警部

長和田勇ト共ニ栃木県小山停車場迄扈從シ奉レリ水戸市民及官吏議員諸學校職員生徒等ハ共ニ

行在所構外及停車場前ニ参列シテ奉送ノ意ヲ表セリ其儀ニ

御着輦ノ日ニ異ナラス又沿道町村ノ吏民等各其停車場ニ参列シテ奉送セルコト亦皆奉迎ノ時ノ如シト云フ

御發輦ニ臨ミ水戸停車場ニ於テ水戸鐵道会社副社長長崎ハ右衛門同取締役天野仙輔塙載飯村丈三郎同支配人菊池永同発起人矢田登大関俊徳等へ拝謁

仰セ付ラレ殊ニ土方宮内大臣ヲシテ汝等ノ盡力ニ依リ此鐵道ノ成リシヲ以テ

行幸ノ諸事御都合能ク相済ミ至極 御満足ニ思召サル、由ノ 聖旨ヲ伝ヘシメ玉ヘリ

御駐輦三日ノ間天氣殊ニ清朗ナリシヲ以テ市中到ル処旭旗ヲ翻シ紅灯ヲ点シ殊ニ千波湖上数千ノ球灯ハ尤モ壯觀ナルニ數所ニ

於テ絶ヘス烟花ヲ打揚ケ樂隊ハ隊伍ヲ組ミ種々ノ樂曲ヲ奏シテ市中ヲ徘徊シ拝觀ノ士女往來絡繹歌呼喧填昼夜頗ル雜沓ヲ極メ

タリ然レトモ 御通輦ニ際テハ毎ニ整肅ニ謹嚴ニ御路筋ノ左右ニ竝列セル様恰モ屏牆ヲ連ネタルカ如ク人々自ラ忠敬ノ面貌

ニ著ハレタルハ未タ他県ニ其比ヲ見サル所ナリトテ供奉ノ諸員ハ大ニ感歎セラレシト云フ此日午後四時安田知事祝宴ヲ好文亭

ニ張り官吏及市民ノ御用係二百余名ヲ會シ 御臨幸ノ事全ク畢ヲ告ケ且ツ 車駕恙ナク 御還幸遊ハサレシヲ祝シ奉レ

リ

三十一日 服部市長ハ更ニ市民ノ御用係百余名ヲ好文亭ニ招テ之ヲ饗シ以テ奉祝ノ意ヲ表シ且ツ其數日ノ勞ヲ慰セラレタリ後

数日ヲ経テ水戸有志者百余名ニハ安田知事職員書記官藤田参事官其他二三ノ県官ヲ泉町垂楊亭ニ招待シテ盛宴ヲ張り其配意ノ

勞ヲ謝セリ此時安田知事ハ昨年一月中市民ヨリ 行幸ヲ請願セシコトモアリシカ行ハレス而ルニ今ヤ計ラヌモ此盛事ニ遭遇

シタルハ実ニ未曾有ノ光榮ナリトノ意ヲ述ヘラレタリ

水戸就産社ニ於テハ常磐公園中央ナル烈公祠堂ノ旧趾ヘ木柵ヲ廻シ行方郡玉造村ナル高須ノ松

【有名ナル古松ニシテ殊ニ義烈二公ノ遺愛ニ係リ】ノ苗木ニ株ヲ移植シ名ヲ御幸ノ松ト命セリ是水戸市ヘ

行幸啓ノ事アリシヲ永遠ノ紀念ニ供センカ為ナリ此日土方宮内大臣及香川皇后宮大夫ヨリ安田知事ヘ伝達アリシ

趣ヲ以テ更ニ安田知事ヨリ服部水戸市長ヘ達セラレタル文ハ左ノ如シ

今般 行幸啓ニ付テハ百事御都合克被為濟深ク御満悦ニ被思召右之趣宜敷申セトノ御沙汰被為在候旨拙者ヘ其筋ヨリ伝

達有之候処右ハ貴下初メ万端注意被行届候故之儀ト被存候条特ニ及通達候也追テ右之趣ハ係員一同ヘ寄々被示度候也

又土方宮内大臣ヨリ殊ニ水戸市士族酒泉直ヘ書信アリ其略ニ云ク

天下ニ先テ勤 王ノ大義ヲ唱候土地ニテ今般ノ行幸啓ハ両陛下ニモ別段ノ

御感覺被為在候御事ニ有之候義烈両公御始諸士ノ靈魂モ定メテ地下ニ感泣ノ事ト存候云々

還幸ノ後一日国民ノ教育ニ関セル 聖勅ヲ四方ニ宣布セラル蓋シ偶然ニ非サルナリ

迎鑾紀事 終
卷末附屬「従水戸停車場至行在所取御道筋及奉迎者参列図」

迎鑾紀事

坤

迎鑾紀事附録

水戸 栗田 勤 編纂

古書画古器物陳列場日誌

此日誌ハ編者力當時場中ニ在テ自ラ與リタル事實ヲ匆卒手記スル処ニシテ固ヨリ蕪雜ヲ免レス且ツ本編ト重複ノ嫌ナキニアラスト雖モ亦聊カ當時場中ノ一斑ヲ觀ルニ足ルモノアレハ今毫モ増損セスシテ此ニ掲載セリ

十月十五日 服部市長ノ依囑ニ応シ長久保松平柏矢田等ノ諸氏ト共ニ泉町ナル奉迎事務所ニ会シ珍奇ナル古書画古器物類蒐集ノ方法等ヲ協議シ勤ハ専ラ小梅邸常磐神社彰考館ヨリノ出品ヲ担当スルコトヲ諾セリ後酒泉直松平俊雄矢田龍彦及ヒ勤ノ十二人堅橋本虎藏谷敬勝寛行鈴木任石川尚顯矢田龍彦及ヒ勤ノ十二人ヲ正員トシ蘆沢信作黒羽銀三郎宮本昇之介【以上三人ハ書畫骨董商】ヲ以テ助手ト定ム

二十一日 仮リニ事務所ヲ百四銀行内ヘ設ケ予メ市役所ノ紹介書ヲ得テ助手三名ヲシテ四方ニ奔走シ神社仏閣及諸家ノ出品ヲ促カサシメ其出ルニ從テ松平柏矢田等ノ諸氏ト其良否真贋ヲ鑑別シ鑑定了レハ直チニ庫藏ニ納ル、ノ順序ヲ為セリ

二十四日 既ニ蒐集セル物品ヲ 行在所内ニ運搬シ其陳列ニ着手セリ

二十六日 午前十一時ニ至テ全ク其陳列ヲ終レリ午後一時過係員一同棚町停車場ニ出テ、 聖駕ヲ奉迎シ二時五分 行在所ヘ御着輦遊サレタリ五時頃侍從子爵北條氏恭氏來テ云ク此場中ノ模様ヲ一見シ來レトノ 内命ニ因リテ來レリ故ニ此陳列品中尤モ珍奇ナル物ハ其大要ヲ説明セラレタシト此時衆頻リニ

勤ヲ推セリ因テ出テ、之ニ答テ曰ク此彰考館ノ出品ナル学宮本様及礼器常磐神社宝庫ヨリ出セル源烈公ノ意想ニ成レル砲銃等ノ模型品小梅邸ヨリ出セル追鳥狩繪卷ノ如キハ皆源義公源烈公ニ緣由アルモノニシテ陳列品中尤モ珍貴トスル所ナリ【コノ学宮本図及追鳥狩繪卷ノ如キハ 行幸ニ際シ必ス 天覽ニ供シ奉リタシトテ家藏及長谷川清等ノ予テ譲リ置カレシナリ】就中学宮即チ大成殿模形ノ如キハ義公夙ニ大学ヲ創立シ天下ニ率先シテ斯文ヲ勃興スルニ志アリ明ノ遺老朱之瑜二問フニ支那闕里ノ制ヲ以テス之瑜古今ヲ商榷シ学宮図説ヲ著ハス公更ニ梓人ニ命シ之瑜ノ指授ニ從テ三十分一ノ木様三十余宇ヲ作ラシム即チ此ニ陳列スルモノ是ナリ後玄孫文公ノ時ニ至リ幕府聖堂ヲ修スルニ當リ大成殿ヲ造立セシハ皆範ヲ此ニ取レルナリ故ニ此ノ木様ヲ一目スルトキハ義公ノ英見卓識千古ニ超絶スルヲ見ルニ足ラン又此砲銃並其器械ノ模形ノ如キハ皆烈公ノ意想ヲ凝ラシタルモノニシテ當時公カ宇内ノ大勢ヲ看破シ大ニ心ヲ海防ニ盡セルノ一斑ヲ窺フベシ追鳥狩繪卷ノ如キ烈公銳意治ヲ図ルノ時ニ際テ一世ノ風習頗ル愉情ニ流レ絶テ軍旅ノ事ヲ忘ル、ニ至ル公大ニ之ヲ慨シ一藩士卒ヲ奨励シ以テ彼ノ絶代ノ美挙ヲ為ス其壯快雄拔ノ状之二依テ想見スルヲ得ン此他古器ニ書画ニ二公ノ親筆ト自製トニ係ルモノ頗ル多シ是レ爰ニ陳列シテ 聖天子ノ 觀覽ニ供シ奉ラント欲スル所以ナリト氏曰ク大意ヲ了セリ此三種即チ彰考館小梅邸常磐神社ノ出品ノ事ハ詳細ニ奏上スヘシ其他ニ至テハ一タ之ヲ具陳シ難シ請フ出品目録ヲ示セト依テ略目録一冊ヲ呈ス【此時侍從ハ勤ノ名刺ヲ求メ爾來此場中ノ一ハ悉ク子ニ照会スヘケレハ然カ心得ラレタシト云フ勤謹テ之ヲ諾セリ】氏去テ後一時間余ニシテ復來リテ曰ク子カ説明ノ大意ハ委曲ニ具陳セリ然レトモ御都合アラセラル、ヲ以テ此所ニ 臨御ノ事或ハ難カランサレ

ハ場中珍貴ノ物品ハ定メテ多カルヘキモ悉ク

叙覽ニ入ル、

ヲ得サレハ先ツ事ノ義烈ニ公ニ関セルモノト水戸ノ名士ノ揮毫ニ係ルモノトヲ撰ミテ進覽スヘシ尤モ彰考館ヨリ出セル書画幅等ハ悉ク差出スヘシ是レ偏ニ二公ヲ初メ諸子ノ誠忠ヲ

御感賞

遊サル、ノ 叙慮ニ出ルモノナリト【是ヨリ先キ既ニ蒐集セル

書画中水戸先哲ノ遺墨甚タ鈔キヲ以テ更ニ其出品ヲ促サントセシニ異論者アリテ其事行ハレズ是ニ至テ俄カニ助手ヲ走ラセ其蒐集ニ着手セルヲ以テ其優逸ナルモノヲ悉ク集ムルノ暇ナク且ツ其所藏家ニシテ出品ノ榮

ニ洩レタルモノモ多カリシハ遺憾ナリキ】勤云ク貴命一々敬承感佩ノ至リニ堪ヘス請フ直チニ選択シテ

玉座ニ進メ奉ラント依

テ其命ヲ係員諸氏ニ伝ヘ夜ニ入テ義烈ニ公ノ親筆ヲ初メ旧弘道館図【此図後ニ出品者ヨリ常磐神庫ヘ奉納セリ】及ニ公ニ関係アル

器物ヨリ水戸先哲ノ書画等數十点ヲ撰ミ直チニ之ヲ侍從詰所ニ出シ北條侍從ニ面シテ其書画等ノ来由ノ大要ヲ陳ヘ目録ヲ附シ

テ之ヲ侍從ニ渡セリ侍從ハ直チニ之ヲ 玉座ヘ進達セリ是ヨリ先キ磯貝書記官中嶋泉属等来リテ場中別ニ一區ヲ設ケテ勅業

品即チ管内ノ物産ヲ陳列セリ是ニ至テ書画類ト共ニ出スヘシト命セラレ且ツ

聖上今御晚餐ヲ聞召サレテ御閑暇アラセラル、ニ因リ先ツ書画類ヲ進覽セヨト因テ勤等其書画幅ヲ抱キテ

倉皇侍從詰所ニ出シ侍從ハ直チニ之ヲ擁シテ 玉座ヘ入リシカ即時其書画類ヲ持返リ

内命ヲ伝ヘテ云ク先ツ民生ニ必須

ナル物産ヲ進覽スヘシ其 叙覽テテ後初テ書画古器物ニ及フヘシ多少時間ノ費ユルハ苦シカラスト嗚呼此命以テ

叙慮ノ

存スル処ヲ窺ヒ奉ルヲ得ヘシ誰カ 聖天子民治ニ

大御心

ヲ注カセ玉フノ厚キニ感泣セサルモノアラシヤ【勤又之ヲ川辺善

固氏ニ問ク曰ク

聖上行在所ニ着御ノ時某顯官ヨリ公園ノ勝景ヲ説キ

テ

御遊覽ヲ請ヒ奉リシニ此度ノ

行幸ハ練兵ヲ觀シカ為メナレハ

其事未タ了ラサルニ遊覽ナト固ヨリ思ヒモヨラス所ナリト

仰ラレシ

ト】

二十七日 早朝追鳥狩繪卷一箱ヲ

玉座ヘ進ム是ヨリ先キ藤

田參事官来リテ云ク場中仏画仏具ノ類ハ陳列スヘカラスト初メ安田知事ハ其所藏ナル古仏像仏具等ヲ

天覽ニ供シ奉ラント

シテ之ヲ山口主殿頭股野宮内書記官等ニ諮リシニ皆之ヲ止メラレシニ依リ參事官ハ殊ニ注意ヲ加ヘラレシト云フ因テ万一此処

ニ

臨御ノ事アルトキハ不都合ナリトテ其仏画仏像等ノ既ニ展列セルモノ、中美術品トシテ尤モ有名ナル者ノ外ハ悉ク撤去

セリ又長久保県属来リテ前夜

皇后宮ノ

御用ナリトテ弘道館記述義回天詩史常陸常陸新論施藝篇興俾和言東湖遺稿等ノ書

ヲ二部ツ、差出スヘキ旨其筋ヨリノ命ナリト伝ヘラル因テ急ニ

其書ヲ収集シテ差出セリ亦以テ 聖上 皇后俱ニ

御心

ヲ正学ニ留メ玉フノ一斑ヲ窺ヒ奉ルヲ得ヘシ豈斯道ノ大幸ニアラスヤ午前八時頃

車駕演習地ヘ向テ出御遊ハサル十二時過

山口主殿頭ニ謁シ家藏ノ著書神祇志料十七卷ヲ 天皇 皇

后ヘ一部ツ、伝獻セラレンヲ乞フ頭快ク之ヲ諾セリ依テ志料

二部ヘ上表文一篇ヲ添ヘテ頭ノ詰所ヘ致セリ午後二時頃

行

在所ヘ還御遊ハサル土方宮内大臣徳大寺侍從長香川大夫三宮亮

股野書記官西四辻侍從山口主殿頭山地将米田侍從等ノ諸氏前

後更ル更ル来テ縦覽ス其来ル毎ニ出テ、其列品ニ就キ義烈ニ公

及先哲諸子ニ関セル事ハ委曲ニ之カ説明ヲ為セリ宮内大臣曰ク

此ニ陳列ノ諸物品何レモ珍奇ナルカ中ニ義烈ニ公ノ遺品ヲ目撃シテ其大志ノ存スル所ヲ察シ一層ノ感想ヲ惹起セリ是レ當市民

ノ好意ニ対シ余カ尤モ謝スル所ナリト勤曰ク閣下ノ恩言実ニ望

外ニ出ツ今其好意ニ縁リ閣下ニ一ノ乞フヘキモノアリ請フ鄙意

ノ在ル所ヲ聴カレンコトヲ抑水戸市民ノ此陳列場ヲ設クルモノ

一タヒ 聖上ノ 勲覽ヲ仰キ以テ上ハ先主ノ心ヲ国事ニ盡セル所以ヲ明ニシ下ハ市民猷芹ノ情ヲ致サントスルニアリ閣下更ニ此微衷ヲ奏聞シ幸ニ 聖天子一顧ノ光榮ヲ賜ハランコトヲト【是ヨリ先山口主殿頭ニ謁セントキモ亦此意ヲ達セシメラレシヲ懇請セリ】大臣首肯シ顧テ米田侍從ニ向ヒ君請フ此意ヲ 聖聰ニ達シ玉ヘト云ヘリ【此時大臣ハ馬車ニ駕シテ行在所ヲ出ラレタリ】侍從之ヲ領シテ參内セラレシカ辱クモ直チニ陳列場ヘ 臨御ノ旨仰セ出サレ【此時玄關前ヨリ陳列場ニ至ル数十間ノ間荒薦テ敷キ渡シ又供奉員ノ外殿二人ノ傍近ニ在ルヲ禁ゼラル故ニ係員モ亦皆遠ク場外ニ出タリ】四時三十分頃徳大寺侍從長山口主殿頭坊城少佐本多中尉米田北條堀河ノ侍從等供奉ニテ 玉歩ヲ陳列場ヘ移サセ玉ヒ其列品ニ就キ供奉ノ諸氏ヨリ交々説明シテ 聖聰ニ達シ奉レリ 聖上ハ 天顏殊ニ麗ハシク大成殿模形品ノ前ニ久シク佇立遊ハサレ奠積ノ礼器等ニ 大御手ヲ触レサセラレ種々 勲間遊ハサレ更ニ常磐神庫ヨリ出セル烈公ノ意想ニ成レル砲銃等ノ器物ヲ 御覽セラレ陪從ノ將校等之ヲ執リテ或ハ発砲ノ状ヲ為シ或ハ硝薬ヲ運搬スル車ノ模形品【此車ハ今陸軍ニテ用ユルモノト殆ント異ナラサル至便ノ製ナリ又三連発ノ如キハ英國ニテ發明アリシヨリ烈公ノ製作ハ殆ント二ヶ月ノ後ナリシカ其製ノ緻密ナルハ却テ彼ノ當時ノ製品ニ勝レリト或ル將校ハ語ラレシト云フ】及ヒ海防ニ用ユル船艦ノ様品等ヲ運転スル様ナトヲ 御覽セラレ頗ル 御感賞遊ハサレシヤニ承ハル又東照宮神庫ヨリ出セル安神車【陳列場ノ窓外ニ置ケリ】ヲモ 勲覽遊ハサレ一時間余ニシテ 玉座ヘ還御遊ハサレタリ程ナク 皇后宮モ亦 臨御ノ由仰出サル此時日全ク暮レタルヲ以テ係員等百方周旋【是ヨリ先キ係官某氏ニ予メ燈火ノ備ヲ為サン事ヲ請ヒシカ聽レス此ニ至テ大ニ狼狽シ宮中或ハ諸係員詰所等ヨリ一時灯籠ヲ借り集メ辛フシテ其用

ヲ弁スルヲ得タリ】灯火數十ヲ点シタルヲ以テ満室煌耀白昼ニ異ラス少時アツテ香川大夫三宮亮山口主殿頭片岡侍從廣幡侍從試補山口少尉女官八九人供奉シテ 御臨場遊ハサレ大夫及主殿頭等ノ説明ヲ聞召サレ列品ニ就キ細ヤカニ其來歴事實等ヲ御尋ネニテ一々 御熟覽遊ハサレ殊ニ大成殿木様及烈公ノ親筆ナル富岳図等ヲ 御感賞遊ハサレシヤニ承ルカクテ場中ヲ徘徊シ玉フ事二時間余ニシテ還御此夜 聖上ノ 玉座ヨリ殊ニ御使アリテ東照宮ノ出品ナル行平ノ刀及ヒ吉房則包ノ三振ヲ進覽セシカ暫時ニシテ御返附遊ハサレタリ

二十八日 早朝山口主殿頭ニ謁セシニ神祇志料ハ既ニ至尊ト皇后宮トヘ伝獻セリトテ殊ニ書ヲ裁シテ家藏ニ報セラレタリ嗚呼一家ノ光榮其レ將タ何物カ之ニ加ヘン午前八時 聖上皇后演習地ヘ 臨御昨日ノ如シ午後四時頃停車場ヘ着御其ヨリ 聖上ハ昇庁ヘ 皇后宮ハ偕樂園及弘道館ヘ 臨御遊サレ 聖上ハ県治ノ事ヲ聞召サレ了テ直チニ行在所ヘ還御 皇后宮ハ 御遊覽ノ後八時頃還御遊ハサレタリ是ヨリ先キ寺門謹氏來テ云ク余嘗テ先師会沢伯民ノ手稿ナル新論二冊ヲ藏セリ即是ナリトテ示サレ且之ヲ 勲覽ニ供シタシ若シ 勲慮モアリテ 御座ニ留メ玉フカ如キコトアラハ慶幸ノ至リナリ然レトモ塗抹改竄ノ草稿ナレハ畏キ辺ヘ差出スモ如何アラン請フ之ヲ子ニ託セン子宜シク計ラハレヨト勤之ヲ承ケ直チニ侍從詰所ニ至リ北條子爵ニ謁シ進覽ノ事ヲ乞ヒ且ツ寺門氏ノ意ヲ致セリ又同氏ノ出セル弘道館梅花詩歌二冊ヲモ進覽ヲ乞ヒ且侍從ニ謂テ云ク烈公ノ弘道館ヲ起スヤ建築已ニ成ルニ及テ士民ノ文事アルモノニ令シ館中ノ梅花ヲ詠スルノ詩歌ヲ扇面ニ書シテ呈セシメ之ヲ其天井等ノ余地アル所ニ貼セリ此書則其詩歌ヲ集メタルモノナレハ亦以テ當時文教ノ闡藩ニ布ケル一斑

ヲ見ルニ足ラン是敢テ進覽ヲ乞フ所以ナリト侍從悉ク之ヲ諾シテ直チニ 玉座へ進達セラレタリ午後六時二十六日ノ夜進達シタル書画類悉ク御返附遊ハサル、ニヨリ侍從詰所ニ至リテ之ヲ受ク此時米田侍從勤ニ接シテ云ク昨ハ 聖上 皇后陳列場へ成ラセラレ義烈二公ノ遺物等一々 天覽ノ所頗ル 叡感遊ハサレ殊ニ 御満悦ノ由 仰セラレ且追鳥狩絵巻ノ如キハ尤モ 御感ニ入り序文ヲ初メ十八巻ヲ盡ク 御覽遊ハサレ其行軍ノ図中ニ掲ケタル旧藩諸士ノ名ヲ一々 御覽セラレ其會テ 叙聞ニ達シタル諸名士ノ名ニ至ル毎ニ 聖上殊ニ御懇ニ其図ヲ見玉ヒツ、是カ誰カ某カナト 仰セラレ其狩獵觀兵等當時ノ実況ハ山口主殿頭等ノ説明ニテ初更ヨリ深更マテ少しモ倦ミ玉フコトナク 天覽遊ハサレ実ニ善キ御慰ミナリキ【此絵巻ハ後二烈公親筆ノ富岳図ト共ニ小梅邸ヨリ宮中へ回送セラレタリ蓋シ 内命ニ依テナリ後 聖上ニハ更ニ宮中奉仕ノ人々ヨリ女官等ニ至ルマテ陪觀ヲ許サセラレシカ既ニ 御熟覽ノ後ナレハ 御親ラ絵説キヲ遊ハサレシヤニ承ル又有栖川宮ニハ更ニ此絵巻ヲ小梅邸ヨリ御借り入レニテ御殿ノ広間ニ展列シ諸將校ヲ會シテ縦覽セシメ玉ヒシト云フ】我々共常ニ 御前ニ侍スルトキハ毎度水戸名士ノ噂サ出ツルニヨリ 主上ニモ水戸ノ事ハ夙クヨリ能ク知ロシ召サル、ヲ以テ殊ニ 叡感モ深カリシナラント思ハルト又云ク余今ハ米田ト称スレトモ実ハ長岡監物ノ男ニシテ此ノ水戸ニハ頗ル縁故アリテ藤田戸田ノ諸先生ハ勿論原田八兵衛氏等ヲ初メ有志ノ諸氏皆余カ先人ト親シク交際セラレタリ就中東湖先生ハ余カ十五歳ノ時適マ先人ヲ訪ハレタリ其時先人余ヲ先生ニ面セシメ其門人タラシメシコトヲ乞ヘリ時ニ余先生ノ風采ノ非凡ナルヲ見テ心窃カニ感喜セリ然ルニ先生ハ幾モナクシテ彼震災ニ罹ラレ親シク其教ヲ受クルヲ得サリシハ実ニ遺憾ニ堪ヘス而レト

モ余ハ當時尤モ弓術ヲ好ミタルヲ以テ先生其座隅ニアリシ弓ヲ執リ椽端ニ出テ自ラ之ヲ引キ満テ持シテ余ヲ顧リミ彼ペリメノ胸板ヲト云ヒタルキノ雄壯偉大ナル相貌今猶眼ニアリテ忘ル、能ハス其時ヨリシテ余ハ男兒タルモノ國家ノ為メニ力ヲ致サ、ルヘカラストノ感ヲ起セリ是則チ先生ヨリ終身ノ教ヲ受ケタルナリ彼西郷隆盛モ往々此ノ如ク一言以テ人ヲ感動スルノ概アリキ余常ニ此二子ノ為人ヲ欽慕セリ昨日陳列場ニテ先生ノ書セル尚武右文鼓舞天地之正氣トアル幅ヲ見テ端ナク懷旧ノ情ヲ起セリ其ハ嘗テ先生此語ヲ書シテ余カ先人ニ贈リタルコトアリシヲ以テナリト勤云ク其陳列場ニアリシハ即チ愚カ父栗田寛ノ藏幅ナリト侍從云ク余ハ旧藩人井上毅ヨリ子カ大人ノ名ヲ聞クコト久シ井上モ旧ハ微賤ノ人ナリシカ幼ヨリ学ニ志シ其為人凡ナラサル所アルヲ以テ余カ先人大ニ之ヲ愛シ其九歳ノ時ヨリ藩儒木下士勤ニ從学セシメ此兒一國ノ器ニアラス他日必ス天下ノ用ニ供スル人ト為ラント云ヒシカ果シテ先人ノ言ニ違ハス今日ハ朝廷枢要ノ地ニ列セリナト談稍佳境ニ入ル時ニ命アリ侍從ヲ召ス侍從 玉座ニ入ラントスルニ臨ミ明朝ハ既ニ決セリ再會ヲ期シテ又往事ヲ語ルヘシナト云ヒツ、別レタリ須臾ニシテ北條侍從又窃カニ勤ヲ召シテ曰ク先キニ出セル新論原稿大ニ 御感賞遊ハサレタリ若シ所藏者ニシテ進獻ニ意アラハ特例ヲ以テ直チニ進獻ヲ許スヘシ就テハ寺門謹ヲシテ一篇ノ願書ヘ県知事ノ添書ヲ附シテ宮内大臣ヘ差出サシムヘシト依テ直チニ車ヲ驅テ之ヲ寺門氏ニ告ケ願書ノ案文添書等ノ事ヲ県庁ナル園部參事官ニ諮リ更ニ安田知事ノ捺印ヲ請フテ今夜中ニ行在所内事課ヘ差出スヘキ手筈ヲ為セリ

二十九日 午前八時 天皇 皇后 行在所御發輦 還幸ノ途ニ上ラセ玉フ之ヲ停車場ニ送り奉ル後松戸公陳列場ニ臨

ンテ一覽シ玉フ是ヨリ先キ 還幸ノ後ハ諸係員等無慮二百名

同時ニ来リテ縦覽セントスルノ報アリ然レトモ場中ニハ尤モ貴重ナル宝器等ヲ陳列シタレハ多人數一時ニ来リテ雑沓スルハ頗ル損壞紛乱等ノ虞ナキ能ハス依テ勤大ニ其不可ヲ唱ヒ若シ己ムヲ得スンハ十人或ハ十五人ツ、交替シテ順次ニ入場シ物品ヘハ一切手ヲ触レシメサルノ規制ヲ設ケテ後入場セシムヘシ然ラスンハ斷然戸ヲ鎖シテ入場ヲ拒ミ物品ノ遺失毀損ヲ予防セサルハカラストイヘリ此時已ニ諸係員奉送ノ帰途一時ニ入場セントスルノ模様アリトテ行在所係ナル古川哲氏急ニ巡查ニ託シテ諸門ヲ鎖サシメタルニ依リ幸ヒニ其雑沓ヲ免レタリ【諸係員ハ皆市中有志ノ人タナレハ乱雑等ノ事ナキハ勿論ナレトモ万一ヲ予防スルモ亦當時出品者ヘ対シ已ムヲ得サルノ事情ナリシナリ】後遂ニ檢束ヲ加ヘテ縦覽セシムルコトニ決シテ順次ニ入場セシメ午後ニ至テ無事閉場ヲ告ケ四時頃ヨリ係員皆安田知事ノ借樂園ニ催シタル慰勞ノ宴席ニ列セリ此日午前十時頃行在所内県官詰所ナル豊田義路氏勤ニ告ケテ曰ク今朝宮内省ヨリ寺門氏ヘ新論稿本献上ノ賞与トシテ金五十円下賜セラレタリ子請フ之ヲ同氏ニ致セト勤之ヲ受ケ直チニ寺門謹氏ニ達ス氏事ノ意外ニ出タルニ驚キ且 聖恩ノ優渥ナルニ感泣セラレタリ氏ハ直チニ之ヲ會沢先生ノ墓前ニ告ケラレシト云フ

三十日 復事務所ヲ百四銀行ヘ移シ物品返却ノ順序ヲ為セリ

三十一日 事務所ヘ會シ 天覽ヲ經タル物品ノ所有者ヘハ其証票ヲ附與スルコトヲ定メ更ニ服部市長ノ慰勞ノ宴ニ好文亭ニ赴キ互ヒニ事ノ整頓シテ一ノ欠点ナカリシヲ祝賀セリ是則チ古書画古器物陳列場日誌ノ梗概ナリ

明治二十三年十一月五日記

附言

明治丙辰ノ三月勤彰考館ノ事務ヲ帶ビテ上京シ小梅邸ニ伺候セリ時ニ家令川辺善固氏殊ニ公命ヲ伝ヘテ云ク先ニ水戸市ヘ行幸ノ際義烈ニ公ノ遺物ヲ 天覽ニ供スルニ当テ汝カ斡旋ノ功亦尠シトセス依テ其賞トシテ古硯一ヲ賜フト嗚呼勤ヤ不敏叨リニ此恩寵ヲ辱フス豈感欣ニ堪ヘンヤ聊カ此ニ附記シテ其光榮ヲ叙ツ

古書画古器物出品目錄

徳川家康公兜

水戸常磐山

東照宮社務所

一羽

【鉢黒塗筋減金四十八間三方シノタレ八幡座減金欽形減金龍頭木質金箔置大吹返金覆輪正平革包金葵紋付眉底金タ、キ金覆輪饅頭鉦五段下リ受張紺麻忍緒紫組】

同鑑

一領

【黒小札緋威胸板黒塗金覆輪金葵紋散革摺六門五段下リ請慈黒板塗大袖七段下リ冠板黒塗金覆輪水吞緒并板減金毛彫裡張紺麻銘南部藤原住岩井與左衛門】

籠手【七本條惣鎖家地】

臍当【毘沙門黒塗金牡丹高時繪】

佩楯【黒小札緋威裏張紺麻】

刀【豊後行平作長二尺三寸二分】

面頬【黒塗内朱前垂五段下リ緒紫麻組緒】

佩

刀【金物赤銅魚子金覆輪金菊桐紋散鐔赤銅木瓜金覆輪大切羽二枚重赤銅金覆輪目貫金菊桐柄茶糸平卷鞘金梨子地豊臣秀吉公佩刀後家康公ニ贈ル所】

一口

佩刀【則包作長二尺五寸三分】

一口

【金物赤銅魚子金覆輪金菊桐紋散鐔赤銅木瓜金覆輪赤銅大切羽二枚重金覆輪目貫金桐紋柄茶糸平卷鞘黒塗金菊桐高時繪家康公所佩】

佩刀【吉房作長二尺四寸六分】

一口

【金物赤銅魚子金覆輪金桐紋散鐔赤銅木瓜金覆輪赤銅大切羽二枚重金覆輪目貫金菊桐紋柄茶糸平卷鞘金梨子地】

佩刀【徳川齊昭卿ノ親作長二尺三寸三分】

一口

【金物赤銅魚子金覆輪金葵紋散鐔赤銅木瓜金覆輪赤銅大切羽二枚重金覆輪目貫金葵紋柄勝色鞘金梨子地金葵紋散】

長巻【無銘長二尺一寸八分コミ長二尺五寸七分鐔元ヨリ一尺三寸五分目切込】

一口

長巻【無銘長二尺五分コミ長二尺二寸四分】

一口

薙刀【平安城俊広作長一尺五寸九分コミ長一尺六寸三分】

一口

薙刀【武州江戸住正俊作長一尺四寸コミ長二尺二寸四分】

一口

直鎗【武州住照重作長八寸一分コミ長一尺四寸二分三筋共同作同寸尺三筋】

獅子仮面【相見奇古東照宮祭事田楽舞曲二用ユル所】

一箇

安神車

一輛

【戦陣ニアリテ銃丸ヲ避ケ得ヘク作りタルモノニシテ専ラ源烈公ノ考案ニ據リ其臣久米新七郎某之ヲ製ス其製車台ノ上一室ヲ設ケ鍊鉄七枚ヲ以テ之ヲ作ル全体菱形ニシテ鎧ノ胴ノ如シ周リ一丈五尺四寸高三尺五寸家根宝形造高八寸五分室ノ後背一扉ヲ設ケ出入ニ便ス左右二小窓ヲ開ク四簷ニ革製ノ小札ヲ連綴シ垂レヲ室ノ外面ヲ蔽フ屋上一孔ヲ穿チ玻璃製ノ磁針ヲ架シ室中座シテ方位ヲ弁スルノ用具トス室内赤地錦ヲ貼シ以テ之ヲ製飾ス座下又一孔ヲ穿チ而便ニ便リス車台多ク鉄板ヲ貼シ樺材ヲ用ユ前後四輪其二輪ハ室ノ左右ニアリ別ニ轆ヲ設ケ二輪ヲ架ス更ニ鈎ヲ以テ其車台ト相連綴シ左右ヨリ運転ス其量凡ソ九十五貫六百目大牛一頭ニ架シテ之ヲ牽カシム構造最モ奇ナリ】

智仁勇三連発銃

水戸市上市 常磐神社社務所

一挺

腰差二連発小銃【附属品アリ】

一挺

八連発銃

一挺

腰差銃鑄形

一箇

小銃【附属品アリ】

一挺

轡中発銃【附属品アリ鎗形図面】

一挺

六連発短銃

一挺

大砲雛形【附属品アリ】

一箇

合薬目方筒

一箇

焼討彈丸雛形

一箇

雨火繩 雜器鉛

一箇

大砲 鎔形雜器

一箇

大砲雛形

二箇

彈藥箱

【以上ミナ源烈公ノ考案ニ係ル】

源烈公富嶽図【設色絹本大横物】

双幅

水戸上市

彰考館

閨里学宮木様

大成殿【本堂】

尊経閣

東廡

西廡

戟門

大門

明倫堂

鐘楼

鼓楼

中軍庁

旗鼓庁
 学舎
 儀門
 進賢楼
 金鼓亭
 射圃
 監箭
 燕寝
 報鼓
 拳旗掌号
 饌房【六手】
 実辺所
 鼎俎所
 傾水
 樞星門
 牌位
 先師
 七十二子
 礼器
 簠 簋
 登 豆
 錙 鈞
 旗竿
 【此本図ハ延宝年間水戸義公明ノ遺老朱舜水ニ就キ親シク其口授ヲ受ケ梓人ヲ撰ヒ闕里ノ製ニ模倣シテ造レルモノナリ蓋シ義公ノ志専ラ朝廷大学ヲ興スノ日ヲ待ツニアリ然レトモ時未タ至ラサルヲ以テ之ヲ府庫ニ藏セリ享和ノ初ニ至テ幕府江戸湯嶋ノ地ニ聖堂ヲ造営シ学校ヲ設ク其制皆範ヲ此図ニ取レリト云フ】

彰考館ノ額【源義公楷書板透下ケ彫糊粉ヲ以テ之ヲ埋ム】一面
 勝地吐懷編【釈契沖自著自筆】一冊
 物徂徠答安積澹泊書牘【漢文章行】一貼
 明朱舜水肖像【設色半牀狩野興也筆 紙本】一幅
 心越禪師富岳自画賛【画水墨絹本横物賛隷書】一卷
 詩彰考館諸子富岳詩十一章 一卷
 【大串元善 鵜飼真泰 安積以寧 人見伝 法橋宗濬 森尚謙 中村顧言 吉弘元常佐々宗淳 今井弘齊 人見節】
 独立書【草楷篆隸等諸体 紙本】三卷
 古法眼元信四聖図【設色】一幅
 安部朝臣小水磨書【仏經小楷紙本】一卷
 朱毓仁祭朱舜水文【自筆紙本】一卷
 朱舜水聖号楷書【紙本】一幅
 張斐飛白書【行書紙本】四卷
 明人書
 【心越 覃獻錄 湯來質 黃子美 黃遂生 黃子芳 周銘 任元衡 沈克異 張殿泰姚江 朱毓仁 澄一】
 追鳥狩絵巻【内序文一卷版字有栖川美登宮夫人撰文】拾九卷
 【天保中源烈公国ニ就キ追鳥狩ノ拳アリ兵ヲ茨城郡堀原ニ出シ後千波原ニ出ルモノ二回公特ニ其家臣松平權藏信循ニ命シテ其行軍ノ現状ヲ摸サシム信循門人加藤彦太郎義智佐野三七郎某久米衡藏某等ヲシテ助手トス時ニ信循公務ノ暇ナキヲ以テ義智ヲシテ專ラ其任ニ当ラシム義智胆勉年ヲ経テ遂ニ全部ヲ成セリト云フ凡ソ国中一切ノ武器ハ甲冑ノ威毛ヨリ旌差物馬標金鼓砲銃等ニ至ルマテ一モ画工ノ意匠ヲ借ラス悉ク其現形ニ就テ描写セルモノナリ】
 古書之部

真壁郡黒子村

千妙寺

和田平助正勝壁書【紙本横物】

水戸市上市仲町

一 幅
寺門謹

崇光天皇御宸翰【勅額】
後陽成天皇御宸翰

二 幅
三 幅

正親町天皇御宸翰【綸旨】

一 幅

後奈良天皇御宸翰

一 幅

菅相公親筆法華經【小楷紺地金泥】

八 幅

日蓮上人自筆法華經【同上】

八 幅

尊朝法親王親筆二十一代集

一 幅

甘露寺前大納言規長卿色紙

一 幅

飛鳥井中納言雅重卿色紙

一 幅

覺恕法親王親筆

一 幅

下総国猿島郡勘兵衛新田

寛田庄兵衛

後奈良天皇宸翰短冊

一 幅

宮井玄仲

公弁法親王書画扇面交張

一 幅

水戸市下市七軒町

佐藤五右衛門

小倉黄門定家卿日記【紙本横物】

一 幅

水戸市上市大町

人見昌

西山公親筆七絶【紙本横物】

一 幅

岡山マツ

西山公親筆【小篆絹本横物】

一 幅

水戸市上市備前町

柏正徳

西山公親筆七絶【紙本横物】

一 幅

西山公親筆

一 幅

源烈公詠歌

一 幅

西山公親筆尺牘【紙本横物】

一 幅

水戸市上市

神應寺

一 幅

寺門謹

西山公親筆
会沢安書蒲生君平碑文【小楷紙本】

一 幅

会沢安古詩長篇【紙本】

一 幅

西山公親筆和歌

一 幅

菅公親筆法華經【紺地金泥欠本】

一 卷

西山公親筆千字文【小楷外一靜尼添書一卷】

一 冊

西山公親筆七絶二首【紙本】

一 幅

安積澹泊酒泉弘諸名家詩文【紙本】

三 卷

西山公親筆七絶二首【紙本】

一 幅

西山公親筆【草書絹本】

一 幅

源烈公親筆和歌【紙本】

一 幅

源烈公親筆【草書絹本】

一 幅

藤田幽谷豊田天功元旦詩【七律各一首紙本】

一 幅

豊田天功送揚子長序【草体漢文】

一 幅

藤田東湖書【行書紙本】

一 幅

佐久間象山書【草行五律絹本】

一 幅

忠家忠俊歌合【添狀附紙本】

一 幅

源烈公親筆古歌【万葉仮字絹本】

一 幅

董其昌真蹟草書七絶二首【明心越禪師遺愛絹本】

一 卷

明英宗皇帝赤符【楷書紙本】

一 卷

水戸市上市上金町

富田彦市

水戸市上市上金町

一 幅

水戸市上市上金町

一 幅

水戸市上市上金町

一 幅

文徵明草行七律【絹本】	水戸市上市北三ノ丸	磯貝静蔵	一幅	源烈公親筆田楽舞詞【仮名田楽装束図入絹本】	水戸市上市馬口旁町	平野弘	一幅	
頼春水草書七絶【絹本】	久慈郡太田町	小林徳善	一幅	源烈公親筆【隸書絹本】	水戸市上市裏南町	横山信夫	一幅	
頼山陽行書七絶【絹本】		一幅		同【隸書絹本】		一幅		
法然上人六字妙号【行楷紙本】	水戸市上市河和田横町	信願寺	一幅	源烈公親筆安神車意案追考及雛形図入【紙本】	水戸市上市西町	雨宮広厚	一幅	
佐々宗淳書【紙本】	水戸市上市天王町	妹尾万壽吉	一幅	藤田東湖行書七絶【絹本】	水戸市下市一丁目	橋本藤兵衛	一幅	
安積澹泊書生熊氏略譜【細楷紙本】	水戸市上市上金町	小林茂夫	一卷	源烈公親筆【隸書絹本】	水戸市上市備前町	桑原恒壽	一幅	
明朱舜水書【紙本横物】	水戸市下市曲尺手町	広瀬惣八	一幅	藤田東湖送桑原毅卿序【紙本】	水戸市上市	千本貫一	一幅	
明朱舜水行書【紙本】	水戸市上市藤坂町	佐藤信熙	一幅	佐久間象山草行七絶【紙本】		一幅		
蒲生君平書【紙本】		河原井正方	一幅	藤田東湖書	会沢正志書	水戸市上市仲町	林魁介	一幅
齊藤監物尺牘【紙本横物】	水戸市下市三丁目	木村伝兵衛	一幅	藤田東湖書	会沢正志書	水戸市上市	菅又伊兵衛	一幅
源烈公親筆【隸書紙本】	水戸市上市仲町	津村行	一幅	源爾公親筆【楷書絹本横物】	水戸市上市備前町	嶋村信一	一枚	
同和歌	水戸市上市桜町	立原正名	一幅	源烈公和歌色紙	久慈郡太田町	小沢豊	一幅	
源烈公和歌短冊	水戸市上市馬口旁町	小泉茂兵衛	三幅対	藤田東湖弘道館記【楷書絹本】	水戸市上市荒木町	矢田鞆雄	一幅	
源烈公親筆要石謠文【中真神鏡図左右仮名謠文】								

源烈公親筆何陋庵記【隸書絹本】

水戸市上市鳥見町 一 大関俊徳

武田耕雲齋草行七絶【紙本】

水戸市上市藤沢小路 一 長久保猷

弘道館記墨本【紙本】

【縦一丈五寸幅六尺三寸全紙一枚ヲ以テ印刷セシモノ】

西茨城郡六戸町 一 穴戸保

穴戸氏家譜

新治郡真家村 一 真家昌五郎

古文書

水戸市上市泉町加納與右衛門 二 卷

頼山陽草行七絶【絹本】

古画之部

水戸市下市 一 木村伝兵衛

明戴古巖農業図【設色絹本】

立原杏所蘆雁図【墨書絹本】

水戸市下市二丁目 一 二川重平

古法眼元信蘆雁図【墨書絹本】

久慈郡太田町 一 浄光寺

明陳子和蓮鷺図【設色絹本】

久慈郡太田町 一 羽生義俣

谷文晁蜀棧道図【設色絹本】

水戸市上市向井町 一 石沢弥次衛門

明仇英美人鞦韆図【設色絹本】

東茨城郡常磐村 一 祇園寺

松樹猛虎図【古画設色伝云唐玄宗所画 絹本横物】

水月観音寺【古画水墨紙本】

一幅

心越禪師出山釈伽【墨画紙本】

水戸市上市馬口勞町 一 桜井善太郎

相阿弥四睡図【墨画紙本横物】

古法眼元信布袋図【淡彩紙本横物】

立山呂洞賓図【設色絹本】

狩野探幽齋守信画【中観音左右昇降龍 絹本】

心越禪師水墨画【中達摩左右蘭竹牡丹 紙本】

水戸市上市馬口勞町

明王一清花鳥【設色絹本】

大高織右衛門 一 一幅

雪舟鍾馗図【墨画紙本】

心越禪師鍾馗図【墨画紙本】

曾我蛇足鷲猿図【墨画右猿左鷲紙本】

円山応挙花籠図【設色絹本】

大雅堂墨竹【紙本】

加納與右衛門 一 一幅

元画羅漢図【淡彩絹本】

明謝道齡梅竹図【墨画左梅右竹絹本】

狩野守信酢吸三聖【淡彩絹本】

円山応挙弘林図【設色絹本横物】

長沢蘆雲山水【淡彩絹本】

謝蕪村雪中山水【紙本】

森祖仙旭日猿【設色絹本】

水戸市上市

法然上人画像【設色自画賛紙本】

信願寺 一 一面

高鳳翰蘆雁図【墨書紙本】

磯貝静蔵 一 一幅

富田彦市 一 一幅

三幅对

一幅

一幅

大森市平

三幅对

坂本庄八

三幅对

菊池庄吉

三幅对

吉久保清三郎

佐藤五右衛門

一幅

三幅对

笹嶋清兵衛

幅

幅

岡野行徳

幅

幅

清人陳惟邦花鳥【設色絹本】

一幅

拾遺古德伝画卷【濃彩紙本源義公寄附】

九卷

古画布袋図【設色紙本横物】

菅又繁太郎 一幅

【箱書云此拾遺古德伝絵全部九卷世尊寺定成卿之詞書土佐將監図絵也第九卷奥書曰元享三年辛亥十一月十二日奉図画之云々願主釈正空】

心越禪師肖像【設色自画賛紙本】

岩間紋次郎 一幅

弘道館惣図

水戸市上市鷹匠町

一枚

円山応挙画【設色石鶏左狗兒絹本】

佐藤信熙 一幅

無量壽仏【木質立像中尊長七分脇土觀音勢至各長五分余印度毘首竭摩作】

加藤遠沢壽老白鹿図【設色紙本】

人見昌 一幅

龜【惣唐木造宝形造金銀五彩】

源烈公墨竹【絹本】

広瀬物八 一幅

外厨子【黒塗四方開扉天女奏樂模様金銀高時絵金葵紋付屋根金草花高時絵内金扉裏金地須弥四天金銀高時絵四上方上塵金瑠璃瑠瑠附底板裏時絵】

森祖仙葡萄獼猴図【設色絹本】

小山田勝貞 一幅

【源義公寄附狀アリ云ク此弥陀觀音勢至二尊伝在我家令寄附封内淨鑑院以充四衆供養云貞享四年歲次丁卯十一月穀旦水戸候源光園識】

円山応挙梅黃鳥図【設色絹本】

小林徳善 一幅

鬼仮面【朱色古代作当社大祭田楽舞曲二用ユル所】

椿椿山芙蓉小鳥図【設色絹本】

沼尻茂兵衛 一幅

猿田彦仮面【朱色古代作当社大祭田楽舞曲二用ユル所】

松周祥張仙送子図【墨画紙本】

久慈郡太田町 一幅

鬼仮面【青色古代作同上】

土佐左近將監光起琵琶行図【設色絹本】

久慈郡太田町 一幅

新羅三郎義光軍配团扇【堅八寸二分横七寸柄長七寸五分革製】

雪村墨画山水【紙本】

加納甚三郎 一幅

石剣【長一尺八寸黒色石質堅硬潤沢アリ】

菊池容齋筆兒嶋高德題桜樹図【設色絹本】

久慈郡太田町 一幅

延命冠者仮面【日先弥勒夜叉作】

住吉広行筆【設色石太公望左杜預絹本】

那珂郡瓜連村 常福寺 一幅

翁仮面【同上】

黒色仮面【古代作】

一箇

毘沙門仮面【出目元体満永作】

一箇

婦久連仮面【出目長雲庸吉作】

一箇

白藏主仮面【石川闌政作】

一箇

不悪仮面【古代作】

一箇

水戸市上市向井町

打越繁司

獅子仮面【青赤黒三色古代制相児奇古俗伝一盛長者遺物ナリト常磐山東照

宮祭事ニ用ル所】

三箇

鬼仮面【青赤黒白各色古代製縁由詳ナラス同祭事ニ之ヲ用ユ】

九箇

人見昌

悪路王頭差物【木質相児醜惡一見畏ルヘシ悪路王ハ常陸ノ魁賊ニシテ人

見氏ノ祖之ヲ討平シ其首ヲ斬テ旗上ニ挂ク後木ヲ以テ之ヲ刻ミ世々其武

功ヲ表スト云フ源烈公添書アリ】

一箇

津村行

鞍骨【梨子地牡丹獅子高時絵伝云フ天正中豊太閤富田知信ニ賜フ所ナリ

ト】

一箇

七宝皿【加藤肥後守清正朝鮮ヨリ齎シ来ル所ト云フ】

一箇

料紙硯【足利將軍義政ノ遺物】

一箇

水戸市上市釜神町

山本泉

小倉黄門定家卿文台

一脚

小山田勝貞

花房道悦文台【縦一尺一寸二六横一尺九寸五分角金物減金毛彫裏黒塗時

絵銘】

一脚

同硯箱

文台裡銘【此硯箱文台者備州花房道悦以高砂松作之於都連歌興行畢発

句等別有之為後証記之者也天正十七年孟夏上旬法橋紹巴花押】

硯箱裏【紹巴道悦昌叱等ノ誹句アリ】

明製広蓋【惣朱金山水蒔絵】

一枚

鎌倉食籠【堆朱惣唐草彫内黒漆】

一箇

常照寺

堆朱大香合【古代製唐草彫】

一箇

笹嶋清兵衛

古鏡【径六寸厚一分六厘裏面花形中蟹龍模様】

一面

大森市平

古銅牛置物【銘長崎龜女作高四寸八分余】

一箇

螺鈿置物台【惣青貝山水人物花鳥等ノ模様アリ】

一脚

古銅釣香爐【高サツルトモ一尺四寸六分口径三寸八分深四寸八分漢土上

代ノ斗形ヲ模造セルモノ古篆ノ銘文アリ】

一箇

二川重平

自然石硯【黒色縦六寸横四寸厚八分驪珠銘篆書裏銘立原万撰文吉田尚典

刻】

加藤七郎

端溪八卦硯【青色六寸四分厚八分八卦模様心越禪師遺愛】

一面

水谷藤助

子昂硯【青端溪縦六寸横三寸六分厚二寸八分三方桐二馬ノ彫】

一箇

桜井善太郎

支那製硯箱

一箇

大高織右衛門

一箇

香盆【金高時絵島台形圍リ欄干附山水模様】

一枚

古代鍋蓋【径リ七寸厚サ二分大高源吾ノ銘アリ】

一枚

【源烈公箱書アリ云ク鍋蓋一枚伝云北條氏之遺物而赤穂義士大高忠雄

之所宝愛也今為小林某家藏嗚呼一物之微後人敬愛之忠義之感人如此

可不勉哉天保五年歲次甲午四月十七日書干湖上別館景山花押】

小泉茂兵衛

源烈公親製健甕槌命仮面【要石能楽二用ル所】

一箇
塙七平

古製琵琶【長二尺八寸胴中九寸余裏銘南無妙御天寶徳三年四月日大山入道

烈公重則源ノ添書アリ】

一面

古鏡【径一尺三寸厚二分八厘裏紋唐草模様古代繡織】

一面

鈴木與吉

月琴【銘鳥獸二篆】

一面

祇園寺

長笛【開山心越禪師遺愛】

一管

浄瓶【同上】

一箇

瓦鉢【同上】

一箇

戒刀【同上】

一口

酒泉直

不動尊像【木質背面銘久壽元年八月二十八日足利城山酒泉氏祖彦大夫弘筑

前ヨリ齋シ来ル所】

一体

八幡宮神像【木質同上】

一体

菅神像【木質同上】

一体

那珂郡馬渡村

浄等寺

毘沙門像【源義公寄付】

一体

多賀郡助川村

北見善作

古代弓【塗木長五尺】

一張

箆【藤網代】

一箇

古箭【四羽】

二筋

那珂郡湊町

菊池鉄五郎

古代鎧【金小札蒔繪威菊池武時元享役二用ユル所ト云フ】

一領

古代鞍【黒塗平時絵】

一口

宍戸保

六孫王六宇旗【厚織布江戸氏ノ遺物ト云フ】
一箇
藝目鐙【長三寸五分圍四寸六分地ウルミ塗宍戸氏祖先ノ遺物ト云フ】
一箇

真家昌五郎

古代旗【厚織布中央ニ野猪ヲ画ク宍戸氏ノ遺物ト云フ】

一流

古代鍬

一箇

古硯

一面

布袋置物【木質】

菅又繁太郎

水戸市上市鷹匠町

森田馨蔵

古銅大黒天像

一体

木質虎置物【台瓜形】

一箇

佐竹旧城門扉額材

林魁介

木片達磨像【水戸金工一柳友壽作】

一枚

刀剣之部

木村伝兵衛

備前長光刀

近藤乗功

千壽院行信刀

近藤和雄

長曾根虎徹刀

朝倉政通

志津三郎兼氏刀【長一尺一寸二分】

吉久保清三郎

宍戸保

宍戸保

一枚

水戸市上市 永田盛信

一箇

一組

水戸市上市 丸水商会

二箱

水戸市上市 町田官次郎

一個

一個

一個

一個

一個

水戸市下市
広瀬惣八

一個

一箱

水戸市上市上金町 小泉勝親

一個

一箱

二箱

桑葉見本

紙

鬢付油

斑石花立台

斑石花立

生糸

菓子器

鯉節

寒水石富士形

梶箱火鉢

鞠廻香爐

結城紬

結城紬

常陸国袋田四度瀑布図
偕楽園春曉之図

水戸市上市

興業商会

一冊

水戸市上市馬口労町

小泉茂兵衛

三種

久慈郡小里村

佐藤兵衛門

四個

西茨城郡六戸町

完全社

一箱

水戸市上市

中嶋泰雄

一個

那珂郡湊町

桜井吉三郎

七本

水戸市上市南町

平方忠孝

一個

水戸市上市

越智直

一個

松岡幾太郎

一個

水戸市上市上金町

塙七平

十一反

水戸市上市泉町

大森長四郎

八反

水戸市上市奈良屋町

松平俊雄

一幅

一幅

花鳥之図

水戸市上市

富永栄

一幅

賀表及和歌進献人姓名表

此二掲クル者ノ外猶詳カナラサルモノアルニヨリ今暫ク姓名ノ
ミヲ挙ケ他日完備ヲ待テ更ニ其表文及詩歌ヲモ悉ク採録スヘシ

賀表

手塚

惠進

仙波

兵庫

大崎治郎太

水戸青年会【衆議院議員ノ表文及姓名ハ本編ニ見エタリ】

和歌

都築高庸

戸牧久

三田寺穂善

中野清

高山重明

大井すゝ子

武熊繁子

小沢利雄

小沢邦彦

宮崎卯之助

戸村義暢

佐藤勇賀子

中村武子

戸村直子

関沢重治

内藤元徳

皆川重孝

皆川秀孝

中山清兵衛

根本保孝

加藤時行

中村貞幹

皆川真激

加藤木峻隻

中村均

綿引聿

大村益荒

酒井喜雄

河嶋礼作

亀井善述

石川重房

孝節者

姓名表

県庁へ

臨御ノ際安田知事ヨリ具奏セラレシモノナリ猶コノ

詳伝ノ如キハ將ニ他日ヲ俟テ補ハントス

孝子

賞登年号

賞典品

郡名

町村名

族

子弟ノ別

氏名

明治八年 金七拾五銭

東茨城

細谷

平民 定吉女

和知つた

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

金二円五拾銭

西茨城

犬田

同

小林善四郎

明治聖徳記念学会紀要〔復刊第52号〕平成27年11月 532

同	賞詞	河内	大徳錦	平民	長島寅之助	同	金二円	豊田	田下	同	伝右衛門孫	折原よし
同	金二円	同	猿島新田	同	七三郎長女	同	金一円五十銭	猿島	諸川	同	きち長男	池沢常政
同	賞詞	結城	大町新田	同	彦兵衛二男	同	金一円	真壁	同	同	同	池沢佐兵衛
同	金二円五十銭	岡田	新地	同	繁蔵妹	同	金二円五十銭	結城	瀬戸井	同	久平長女	高島てつ
同	金二円	北相馬	羽中	同	鈴木つね	同	金二円五十銭	西葛飾	小手指	同	同	松本のゐ
同十五年	賞詞	久慈	中野	同	勇蔵長男	同	金一円五十銭	真壁	下妻	同	同	軽部庄吉
同	同	多賀	大津寄留	福島県	宮崎勝全	同	木杯	西茨城	平町	同	同	立川利平
同	同	新治	刈間	平民	高野周平	同二十年	金二円	鹿島	筒井	同	同	額賀佐太郎
同	同	信太	飯田	同	矢口兵吉	同	襄状	真壁	真壁	同	同	関代吉妻
同	同	河内	長竿	同	杉山なか	同廿一年	金一円	同	同	同	同	関田某女
同	同	筑波	本郷	同	庄三郎孫	同廿二年	金一円	同	飯塚	同	同	齊藤駒吉
同	同	真壁	袋	同	根本みき	同廿二年	金三円	東茨城	常磐	同	同	伊三郎長男
同	同	同	前河原	同	鳩貝和吉妻	同廿三年	金二円	行方	麻生	平民	同	小野沢七蔵
同十六年	賞詞	西葛飾	上岩瀬	平民	鈴木喜之助	同	同	西茨城	笠間	同	同	長部政吉
同	同	東茨城	水戸市	士族	藤田よし	節婦	同	那珂	野田	同	同	小林新八
同	同	同	仲ノ町	同	小宅忠志	賞譽年号	賞與品	郡名	町村名	族	子弟ノ別	氏名
同	同	同	同	忠志弟	荒井千代吉	明治七年	金三円五十銭	久慈	東河内	平民	大野吉蔵妻	はる
同	同	那珂	大宮	平民	矢野治作	同	金三円七拾五銭	同	大森	同	高橋吉左衛門妻	大森よし
同	同	行方	小瀬沢	同	小貴寅松	同八年	金一円	東茨城	飯島	同	原原惣左衛門妻	さく
同	同	富田	同	同	飯島半右衛門	同	同	同	紹谷	同	古川吉之妻	細谷ひさ
同十七年	金三円	新治	大増	同	大貴伝蔵	同	金一円五十銭	西茨城	門毛	同	寺崎勇吉妻	ゆう
同	金拾円	久慈	留	同	いか	同	同	久慈	白羽	同	中嶋吉左衛門妻	けい
同	金拾円	新治	穴倉	同	安右衛門伯父女	同	金七拾五銭	多賀	中妻	同	滑川兵助妻	さん
同十八年	金一円	豊田	山口	同	平間勝之助妻	同	金一円	行方	玉造	同	関町松五郎妻	大場みよ
同	同	同	同	同	たき	同	同	真壁	横根	平民	天谷吉兵衛妻	かつ
同	金三円	那珂	山方	同	木村庄右衛門	同九年	金二円五十銭	真壁	栗崎	同	寅三郎女	飛田なを
同	同	真壁	潮来	同	田山すて	同	金一円五十銭	東茨城	同	同	同	ゆう
同	同	同	同	同	新吉長男	同十年	金一円	同	野田	同	飯田清三郎妻	よね
同	金六円	同	樋口	平民	間野兵三郎妻	同	金一円	久慈	瑞龍	同	大森直七妻	同

[illegible]

藤郷鎭三郎	川崎胤春	富田政成	長磯貝静蔵	主幹園部質	穂積権司
山本正備	小口熙	久世孝太郎	和知忠順	長久保猷	久野政裁
吉成正蔵	野崎栄次郎	沼野井惟義	手塚恵進	清水恵敏	佐藤文衛
瀧川要政	榊尚明	大岩次知	水谷亥之輔	寛保	栗原利忠
加藤時行	石川尚敏	齊藤孝	田村直次	安嶋善從	
清水房之助	植原裕	今井惟明			
道路車馬停車場係					
長藤田健	永田盛信	主幹川田喜久	行幸啓御用係人名表(市民ノ部)		
山内正興	酒泉温忠	中嶋泰雄	奉送迎係	横山信夫	大関俊徳
白井聞一	伏見東二郎	白石肇	搞実次郎	大森織右衛門	尾崎為貴
渡辺重正	永井道敏	久留彦八	大森尹諧	矢野勇	酒泉直
谷口助之進	池谷惟孝	野田綱三郎	矢田登		
井上正路			関恕		
好文亭弘道館係			行在所係		
長藤田健	永田盛信	主幹和知忠順	飯村驛	橋本藤兵衛	大森尹直
長久保猷	小口熙	相馬峯治	谷敬勝	中村熊丸	小山田勝貞
北山貞吉			黒沢平兵衛	矢野勇	矢田登
演習地係			古川哲	二川重兵衛	小泉茂兵衛
長藤田健	主幹和田忠	鈴木重徳	水谷藤介	湊仁兵衛	広瀬惣八
寺門久米太郎	小山正	原田明誠	鈴木庄兵衛		
大関義方	岡野政孝	横山直温	旅館係		
雨沢留次郎			伊藤祐吉	石沢幸得	橋本幸介
會計用度係			塙七平	大森平兵衛	大高織右衛門
長磯貝静蔵	藤田健	主幹豊田義路	大森長四郎	岡部求一	草川資信
倉田亮次郎	江橋克己	坪井元次郎	小林定文	浅田重	佐藤五衛門
岩瀬武	小野伝		弓削徳三	広瀬賢之介	関恕
雑務係			鈴木重任	鈴木重雄	須藤長衛門
			鈴木厚隆		

道路車馬係	石川信雄	塙三三郎
石沢弥次衛門	金子訥	横屋一
西村弥兵衛	野上球平	大森尹直
中山直温	矢野勇	山岡元信
岡本徳次郎	小泉茂兵衛	桜井孝三郎
深谷平兵衛	菊地彦	関信之介
桜井善太郎		
鈴木菊太郎		
好文亭係	林徳十郎	金子訥
長谷川尚寛	村田正孝	小沢敏行
大関俊徳	水谷藤介	湊仁衛門
三木直		
弘道館係	横山信夫	立花義済
横山高堅	大野定	寺門謹
室伏聿	関恕	
秋山誠明	古書画古器物陳列場係	
石川尚顕	橋本正堅	橋本虎蔵
寛行	柏正徳	谷敬勝
栗田勤	矢田鞆雄	矢田龍彦
松平俊雄	酒泉直	鈴木任
助手蘆沢信作	同黒羽銀三郎	同宮本昇之介
會計用度係		
長谷川守行	長谷川尚寛	林徳十郎
西野元聿	富田彦市	野田善三郎
大河内弥	大津金兵衛	
雑務係		

戸村羨令	河原井正方	吉久保清三郎
横屋一	館済	津村行
室伏聿	宇野弥兵衛	久野五郎衛門
栗田彦六	矢田登	山崎春雄
木村伝兵衛	森田惣重	鈴木菊太郎
【以上姓名ノ順序ハ官吏ハ其等級市民ハイロハ順ニ因レリ又同姓名ノ数所ニ見ユルハ彼は相兼務セラレシナリ】		
寄附金姓名表		
奉迎ニ関スル諸事ノ費用ニ供スル為メ市民ノ金員ヲ寄附セルモノナリ		
大関俊徳	川崎銀行	大保農社
六十二銀行	藤田健	交同会
富田彦市	塙載	大高織右衛門
綿引甚介	服部正義	大森長四郎
二川久兵衛	木村伝兵衛	大森市平
笹嶋清兵衛	中村熊丸	手塚任
黒沢平兵衛	広瀬惣八	佐藤五衛門
野田善三郎	小山田勝貞	大津金兵衛
中村忠兵衛	岩淵清介	尾崎為貴
一色宗十郎	橋本藤兵衛	小田野重兵衛
西野元聿	戸村義令	鈴木重任
三宅八三郎	山岡元信	亀井善述
本間資興	小宅時正	菅秀俊
立花義済	長久保猷	中川忠純
福田晋	古川哲	酒泉温忠
雨宮広厚	水谷亥之輔	関恕
上野清衛門	渡辺松吉	水谷徳介衛
		渡辺きせ

小泉茂兵衛	湊仁衛門	小林定文	横山高堅	小野伝	大岩次知	嶋村信一	柴田郁之介
加志村藤衛門	黒羽銀三郎	和知忠順	小沢安兵衛	鹿討直五郎	桑原恒壽	草川資信	黒沢周介
高野惣太郎	榎木町	鈴木重雄	佐久間庄八	稲葉角之介	龜山庄介	鹿嶋金兵衛	小森善介
石沢専衛門	森田惣重	谷田部惣七	大部八次郎	根本順之介	川上弥四郎	遠山崇	横瀬豊吉
榎村源兵衛	二川宗兵衛	西川嘉兵衛	中村松兵衛	西野辰彦	鈴木練平	高野徳順	弦巻きよ
広瀬賢之介	丹誠	園部質	津田信存	谷田部弥介	川辺元同	岡崎やす	江橋克己
村田正孝	三村熊三郎	佐々木壽	関信之介	長谷川守行	山田忠八郎	小野崎汎	田沢守政
金子源兵衛	水谷龜造	川上清吉	中山徳兵衛	川又善太郎	石河幹正	横屋一	蓮沼信一郎
塙三三郎	軍司富衛門	瀧田信八	大曾根兵介	吉川常弘	永井衛敏	飯場恒雄	石川勝元
蓼沼文吉	落合銀兵衛	橋本幸介	堀和市兵衛	館濟	村山清三郎	飯嶋源衛門	秋山為政
朝倉政通	佐藤半兵衛	本橋太兵衛	立原俊之介	石川信和	伊藤祐吉	石川重房	池谷惟孝
菊地龍太郎	大森宇之太郎	原田明誠	穂積權司	堀口新	豊田伴	太田捨吉	小野信
豊田義路	大野定	河原井正方	柏正	名越時孝	中村貞幹	中嶋泰雄	村田一郎
金子訥	横山信夫	矢野勇	山内正興	野田弘	宇都宮徳藏	内林永成	鶴殿七郎
小沢一	浅田重	菊地勸	上野球平	野田綱三郎	菊地鼎五郎	山本信継	油田亀五郎
鈴木庄兵衛	西村弥兵衛	長谷川尚寛	鈴木菊太郎	岩間正修	弓削徳三	皆川真激	森山滋
和田織次郎	岡本安兵衛	久野五郎衛門	須藤長衛門	久木久敬	関信勝	鈴木厚隆	佐藤庄三郎
金子八郎衛門	中村半兵衛	奥山勝次	瀬谷正	大関義方	大岩次俊	大関信親	岡本正靖
多治見国明	大森尹直	庄司仙蔵	菊地右兵衛	大河内弥	大曾根豊彦	寛保	河合清
久保清吉	上野喜兵衛	青柳縫男	後藤弥平	桑名重太郎	久留彦八	松田則定	松平俊雄
菊地庄吉	岡崎松兵衛	栗田彦六	佐川九兵衛	松田三相	古沢重壽	古川澄	近藤嘉
山田喜兵衛	小沼源衛門	金子藤介	谷千次郎	小泉潔	小沢篤信	寺門久米太郎	会沢善
立見四郎	小原俊賢	菊地慎七郎	桐原真頭	雨宮直	朝比奈熊麿	跡部耀	
下野立	篠原節	白井聞一	太田実				
和田忠	田土部勝則	瀧川要政	栗田寛				
倉田亮次郎	久野政裁	手塚恵進	秋山誠明				
神長誠	伏見東二郎	石川建長	乾真勇				

迎鑾紀事附録 終

【以下三百三十二人ノ姓名及寄附金額収支決算等ハ皆市役所ノ原本ニ詳カ
ナレバ今コ、ニ省略セリ】